



2025 年度 事業報告書

目 次

はじめに	・・・ 1,2
01 生活介護はちみつ	
▪ ホーム活動 1-春のいろ	・・・ 3-5
2-虹のもと	・・・ 5-7
3-花あかり	・・・ 8,9
4-黒のビロード	・・・ 10-12
▪ 生産活動 1-タートルズ（木工・箒班）	・・・ 13,14
2-クレインズ（織物班）	・・・ 15-17
3-ゴーツ（清掃班）	・・・ 17-19
▪ サークル（造形／スポーツ／カラオケ）	・・・ 20,21
▪ 行事報告	・・・ 21-23
▪ 健康管理	・・・ 23,24
02 四街道市福祉作業所	・・・ 25-27
▪ 健康管理	・・・ 27,28
03 共同生活援助はにかむ	・・・ 28-30
04 相談支援事業所あわい	・・・ 30,31
05 CCC 地域貢献事業部	・・・ 31-35
06 職員研修	・・・ 36-39
07 利用状況	・・・ 40
08 2025 年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会 事業計画	・・・ 41-46
09 2025 年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会 事業報告	・・・ 47-51

はじめに

本年は、現在の前身である特定非営利活動法人はちみつの設立から 10 周年という大きな節目を迎えました。

10 年前、生活介護はちみつの開所に向け、毎日奔走していた日々を思い返すと、今では懐かしさとともに、多くの方々に支えていただいた記憶がよみがえります。

当時の私は、正直に申し上げれば四街道という地域のことを十分に理解しておらず、多くの方からご指導をいただきながら成長させていただきました。なかでも、四街道市手をつなぐ親の会会長穴澤様には、開所前から現在に至るまで、数え切れないほどのご助言とお力添えをいただいています。時折、叱咤激励していただきますが、私にとってはどれもありがたい言葉ばかりであり、法人にとっても欠かすことのできない存在です。この場をお借りして、あらためて感謝申し上げます。

また、法人設立当初からずっと支えてくださっている高杉ご夫妻にも、心より感謝申し上げます。法人立ち上げのお話をした際には心から喜んでくださり、施設の開所準備から運営まで、陰に日向に力を尽くしてくださいました。今も変わらず、私たちを客観的な視点で見つめ、必要な助言をくださる大切な存在です。

この 10 年を振り返るにあたり、まずは私をはじめ法人や仲間たちを支えてくださった方々に、「ありがとう」の気持ちを心からお伝えしたく、冒頭に述べさせていただきます。仲間のご家族をはじめ、これまで関わってくださったすべての皆さまに、あらためて深く感謝申し上げます。

○10 年間の歩みと理念の実践

振り返ればあっという間の 10 年でしたが、仲間の人数も少しずつ増え、私たちの理念である「**地域のなかで、地域のために、地域に必要とされる、愛される社会をつくる**」を実現するために、「側楽（はたらく）」の実践を積み重ねてきました。

仲間たちが毎日楽しく、笑顔で過ごせること、その当たり前のように何より大切な日々を守り育てるため、これからも丁寧に支援を続けてまいります。引き続き、皆さまのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、今年度の事業報告では、「**得意なところに目をむけて、苦手なところに手を当てる**」という支援の視点から見てきた仲間たちの姿をテーマとしてまとめさせていただきます。このテーマは、法人理念に掲げる Value の一つでもあり、私たちの支援の基本的な考え方の一つです。私たちは、仲間の得意なところを知り、時には発見し、時には引き出しながら日々の支援を行っています。仲間の得意を見つけることは、私たちの大切な役割であり、その得意が発揮できる場や環境を整えることまでが支援であると考えています。単に得意を見つけるだけでは支援は完結しません。見つけた得意を仲間自身が実感し、手応えとして感じられるところまで支援することが、私たちの支援であり専門性が重要であると思っています。

では、その専門性とは何かといいますと、私は、「仲間同士の関係づくり」だと思っています。

ます。得意な姿を通じて仲間から認められ、称賛され、手応えを感じる。そして、その本人が仲間たちを認め、称賛するようになります。こうした仲間同士の関係性の構築や積み重ねが、仲間たちの手応えにつながり、法人事業所の日々の豊かな実践を創っています。

本事業報告では、生活介護はちみつと四街道市福祉作業所、共同生活援助事業はにかむ等、そこで生活を共にする仲間たちの姿を通して、私たちの大切にしている支援の在り方をお伝えできれば幸いです。

○これからの10年へ

「小恥（しょうち）を悪（にく）む者は大功（たいこう）を能（あた）わず」といいますが、まだまだ大功には至っておりません。しかし、恥をかいたこと、失敗したこと、その一つひとつが糧となり、今の法人の姿があります。仲間たちと夢を語り合いながら歩んできた10年でしたが、夢を語り、夢を形にして、実現するには、10年では決して足りません。ここからまた、新しい10年が始まります。これからも仲間たちとともに歩み続け、地域に必要とされる法人として、未来を創ってまいりたいと思います。

引き続き、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人よつかいどう福祉会
理事長 金室 修平



01 | 生活介護 はちみつ

・ホーム

1-春のいろ



緑川 景太 小島 美海 沼澤 明姫 廣井 美奈
河野 佐知子 塚本 優実 高杉 和明 岩館 和大

今年度の春のいろは、男性6名女性4名で始まりました。春から新しい仲間が増えました。今年度は「わっはっは大作戦」と称して、昨年に引き続き「健康維持」と新たに「一人ひとりが主人公」という2つの重点目標を掲げていました。

毎朝のウォーキングも3年目になり、仲間たちの日常になってきました。新しい仲間をあたたかく迎え、集団としての団結も感じました。そんな仲間たちのエピソードを紹介したいと思います。

はじめまして

Aさんは今年度からはちみつに入所しました。今ではいつも明るく、どんな事にも興味を持って取り組めるなど素敵な所がたくさんあります。しかし、はちみつに来た当所は初めての一步を踏み出すことが苦手で、周りを見渡して様子を伺う姿が多く見られる方でした。そんなAさんが素の自分をだせるようになったエピソードを紹介したいと思います。

ある日の朝、なかなか周囲に馴染めずにいたAさんに職員が朝の体操に使う竹の棒を棚から取ってほしいとお願いしました。Aさんは淡々とした表情で頼まれたことをこなしてくれました。そんなAさんに対して仲間たちはそれぞれに、「ありがとう！」と声をかけてくれました。「ありがとう」と仲間たちから声をかけられると照れくさそうに笑顔を浮かべました。

Aさんの笑顔を見た職員は、それ以降、明日の予定の発表もお願いするようになりました。次第に仲間との関わりが増えていきました。緊張も段々とほぐれてきたのか、笑顔でいる時間やコミカルな動きが段々と増えていきました。

始めの一步を踏み出すことが苦手なAさんに対して、仲間との関わりがより増えるよう支援をしました。仲間たちと日々接する機会が増えたことで、はちみつでの居場所や安心感を得たのだと思います。今では春のいろで一番の笑顔を見せてくれ、様々なことに積極的に動いてくれるようになりました。

みんなと一緒になら

春のいろでは毎朝10時から30分ほど、はちみつの周りをウォーキングしています。Bさんは明るく活発に仲間とのコミュニケーションを楽しまれる方です。しかし、元々運動が苦

手なことや寂しがりな所が重なり、最近ウォーキングに気持ちが向かない日が増えてきました。そんな B さんが再びウォーキングに気持ちが向くきっかけになったエピソードを紹介します。

ある朝、「ウォーキングに行きましょう！」という職員の掛け声と同時に、仲間たちが出かける準備を始めます。しかし、B さんだけ椅子に座ったまま動こうとしません。職員が声を掛けると「いきたくない」と一言。職員は B さんに提案します。「今日はみんなで手を繋いでいこうか」、それを聞いた B さんは渋々と言った様子でウォーキングに出かけました。初めは渋々歩いていた B さんでしたが、仲間と職員と手を繋いで歩いていると次第に笑顔が溢れてきました。

元々は仲間とのコミュニケーションが大好きな B さん。仲間と手を繋いで歩くことにより、普段よりも近くに仲間の存在を感じ、寂しさを感じなくなったのだと思います。また、苦手なウォーキングに参加する勇気も湧いてきたのだと思います。以後、手を繋いだウォーキングを重ねることで、笑顔で歩く姿が多く見られるようになりました。

わっはっは運動



はちみつでは、帰りのミーティングで、仲間たちに、一日の楽しかったことや頑張った出来事を発表してもらい、「お疲れさまでした。」と全員で声を掛け合っています。音楽が大好きな C さんは、場面の切り替えをすることが苦手で、帰りのミーティングに参加することが難しい状態でした。そんな C さんが帰りのミーティングに参加するきっかけとなったエピソードを紹介します。

C さんが一緒になって楽しく参加出来るように、三三七拍子のリズムで、一日の楽しかったことや頑張ったことを発表したあとに「わっはっは！ わっはっは！ お・つ・か・れ・さ・ま・で・す！」とみんなで声を掛け合うようにしました。「わっはっは運動」の始まりです。この運動を始めると、帰りのミーティングになかなか向かえなかった C さんも「わっはっは」のリズムにつられて徐々に参加できるようになってきました。春のいろの仲間たちも C さんが帰りのミーティングに参加しないことを心配していました。帰りのミーティングに参加し、笑顔が増えていく C さんの姿をみて、春のいろの仲間たちも笑顔が増えていきました。

どうしたら C さんに帰りのミーティングに参加してくれるのか、たどり着いた答えは C さんの大好きな音楽でした。C さんは、自身が帰りのミーティングに参加することで、仲間たちが笑顔になることに手ごたえを感じている様子でした。また、「苦手なことも大好きなことと一緒になら向き合うことができる」と自信を持てたのだと思います。そして今では、夕方の仲間たちの笑顔を創る存在となっています。

まとめ

今年度も仲間たちの素敵な場面がたくさんありました。新しい仲間を迎え入れたり、仲間の為に一緒に歩いたり、みんなで手拍子をしたりなど、一層集団としての団結が高まったと思います。特に今回取り上げさせて頂いたエピソードは、仲間たちの苦手なことに手を当て、得意なことに目を向けることで見えた仲間の姿を象徴するものだと思います。一人ひとりが仲間たちを思いやり、行動する姿はとても素敵です。来年度もそんな姿が多く見られるような支援をしていきたいと考えています。また、来年度も引き続き健康維持に努めるため、朝のウォーキングについては続けていきたいと考えています。



2-虹のもと

山本鮎実 大淵友那 山畑遼侑 高橋美紀
櫻井拓 高杉洋子 横瀬さち

虹のもとは、男性4名女性6名の計10名が在籍しています。新し仲間も増え、ひとりひとりが輝けるよう今年度は「個を知って得意なことから自主性を引き出し自信につながるように支援する」を重点目標に掲げて元気に活動してきました。

今回のテーマである『得意なところに目を向けて、苦手なところに手を当てる支援を通して見えてきた仲間の姿』は、出来ないことは目につきがちです。しかし、得意なところに着目することで、苦手なことを自然と乗り越えられたり、仲間が自ら行動を起こせるようになるということが分かりました。誰にでも得意不得意はあります。良い面を見てそこを伸ばす支援を心掛けると、仲間も嬉しい気持ちになれ、張り切る姿が見られたり、最後には出来た喜びや手応えで晴れ晴れとした気持ちになれるようです。そんな素敵な姿が見られたエピソードをいくつか紹介させて頂きたいと思います。

〇〇さんは私の推し！！

Aさんは笑顔がチャームングで仲間のお世話をしてあげたいお姉さんタイプですが、なかなか自分の気持ちが伝えられず、引っ込み思案な性格です。そんなAさんが自分を出せて、自らコミュニケーションを取りに行けたら素敵です。Aさんはどんな時頑張れたりするのでしょうか。それは近くに好きな人がいる時です。好きな人が近くにいれば色々なことにも挑戦できますし、頑張ることができるAさん。でもなかなか自らコミュニケーションをとることができません。そこで私たちが考えたのが、「推しグッズ大作戦」です！！

Aさんが大好きな職員の写真を、Aさんと一緒にピンクの大きなうちわに貼りました。後ろには『じゃんけんして♡』の文字。なかなか恥ずかしくて言葉で伝えられないAさんでしたが、この推しグッズを手にする事で、不思議な力が湧いてくるようです。うちわ片手に出かけていき、推し職員の前でフリフリ♪

職員「どうしたのー？」

Aさん「一緒にお仕事してほしいの。」

職員「それでは、次の活動で一緒に糸巻きやりましょうね！！」

一緒に作業をする約束ができた Aさんは、早々と活動に取り組み、糸巻きの仕事を張り切って行うことができました。職員の事も照れくさそうに見つめながら応援します。「明日はじゃんけんお願いしようかな♪」と、明日の事も楽しみにしている Aさんの表情はとても満足気でした。

この「押しグッズ大作戦」を通して、Aさんが手にしたのは『自信』かもしれません。自分の気持ちを素直に伝えられ、希望がかなった Aさんは、とても幸せそうでした。

その日をきっかけに、以前よりも積極的に自分から行動できるようになってきました。

調理のミーティングでは考えてきた食べたいものが言えたり、仲間がそろっていないと気が付いて自ら呼びに行ってくれたりします。Aさんを変えた押しグッズは、今でも大切に事務所に保管されており、笑顔の押し職員の写真と共に、いざという時に活躍します。でももう、押しグッズがなくても自信を手にした Aさんは、足取り軽く押し職員のいるホームに遊びに行き、自らの言葉で伝え、好きなじゃんけんでコミュニケーションをとることができるようになりました。

私は応援団長！！

Bさんは場面の切り替えや、環境の変化が苦手です。いつもと違うことが起こるとなかなか受け入れられず、頑なに参加しなかったり、怒って帰ろうとしてしまったりします。そんな Bさんですが、仲間思いの一面があります。

この日は、「二十歳を祝う会」でした。事前に説明はしていましたが、Bさんは首を横に振って参加を拒み、会場となる食堂には入れず、自分の部屋の端っこに座っていました。同じ頃、司会を頼まれた同じホームの Cさんはソワソワして行ったり来たり・・・席にも座れず落ち着かない様子です。

そこで職員が、「Cさんが緊張しているよ。応援してあげよう！！Bさんが応援してくれたら Cさんも緊張がほぐれるかもしれないよ！」と伝え、Bさんはスクッと立ち上がり、ホームの色々な道具が入っている棚の扉を開けると、先日『押しグッズ』作りで使用したうちわを取り出しました。するとペンで「がんばで！！（頑張れ！！）」と力強くメッセージを書き入れ、それを片手に食堂に急ぎました。Cさんも、Bさんが振るうちわを目にして表情が柔らかくなり、立派に司会を務めあげることができました。



Bさんの仲間思いな面に目を向けることで、苦手な「場面の切り替え」を乗り越えることができました。職員も参加してほしいという思いはありましたが、なにがなんでも参加させようという姿勢ではなく、Bさんの気持ちを尊重し、本人が考えて、気持ちで行動に移せるように支援できたことが良かったのではないかと思います。

やっぱり私がないとね！！

Dさんは、何でも器用にでき、色々なことに気が付ける方です。しかし、最近のDさんはというと・・・「疲れた。」とそっけない返事ばかりが返ってきます。表情はなんだかつまらなそうで、気持ちも沈んでいます。そこで考えたのが、Dさんを頼って任せる大作戦です。ただ任せるのではなく、職員と一緒に誰かの為になることをやり遂げる、そして、周りから評価され手応えを感じてもらうことがポイントです。

新春スポーツ大会でDさんが提案してくれた縄跳びリレーが採用されました。そこでみんなの前で競技説明する大役をDさんにやってもらうことにしました。

職員「一緒にルールを考えて、その台本をパソコンで打ってくれないかな？」

Dさん「うん。いいよ！！」

Dさんは二つ返事で引き受けてくれました。パソコンを使って職員と行う特別な任務を任せられ、少しワクワクしているようでした。パソコンを用意するとすぐに座ってやる気満々です。打ち終わった競技説明の台本は、本番当日まで何度もくり返し練習していました。職員にも「昨日考えてきたんだけどさ！」と、説明の際、実際に縄を持ってやって見せる提案もしてくれました。当日Dさんは緊張しているようでしたが、頬を赤らめて「ちゃんと伝わったかな？大丈夫だったよね？」と聞いてくる声は弾んでいました。

その後のDさんは、やる気に満ち溢れ、応援団旗を作る際のミシン作業や色塗り、柄となる竹ののこぎり作業、準備から後片付けなど全てにおいて主となり張り切って行ってくれました。本当に助かり頼りになるDさんに心から「ありがとう。頼りにしてるよ！！」と言うと「私に何でも言ってよ！！」と笑顔で返事をしてくれました。

必要とされ、頼られることでDさんは安心できる自分の居場所を見つけることができたのかもしれない。

まとめ

虹のもと、仲間を思いやれる温かいホームです。応援団長と紹介したBさんの優しいところは仲間がちゃんと知っているので、Bさんが困っているとみんなが手を差し伸べます。Bさんがどんぐり集めに夢中になっていることを知っていて、拾ってきてくれたり、集めたどんぐりをホームで誤ってばら撒いてしまった際は、みんなが急いで拾い集めてくれました。それが嬉しかったBさんは、紙コップとそのどんぐりを使ってマラカスを作ってきてくれました。そのマラカスは音楽レクを盛り上げ、新春スポーツ大会の応援グッズとしても大活躍しました。その際に頂いた応援賞は、そんな温かいホームみんなの力で勝ち取ったもので、団長のBさんのとても満足そうな表情が印象的でした。

仲間同士で支え合い、仲間が主体的になり声を掛け合いながら色々なことを乗り越え、絆が深まった1年でした。職員が仲間のことを知り、良いところや得意なところに目を向け、「できる」ことをきっかけに手立てを講じることで、仲間が苦手なところも「頑張ろう！」「やってみよう！」と挑戦する姿を見せてくれました。その結果、相手を思いやれる温かいホームになったのではないかと思います。今後も、良いところや得意なところに目を向け、仲間が自分の苦手なことにも取り組み、自信をもって、毎日生活できるよう支援していきたいと思います。

3-花あかり

堀 柊人 知脇 風香 北林 智子
飯野 洋平 遠矢 祐子 高田 有啓



花あかりは、本年度1名の新しい仲間が入り、男性9人、女性1人でスタートしました。平均年齢が若く、4つのホームの中で一番賑やかです。本年度花あかりは「一人ひとりが役割を持ち生き生きと出来るよう支援する」「メリハリを持って生活する」を重点目標に掲げ、支援を行ってきました。

みんな、一人ひとり得意な所や、苦手な所があります。今回は、仲間が役割を通して苦手を乗り越えていく姿を紹介させていただきます。

はちみつのバリスタ、仲間の為に！

Aさんは、普段は優しいのですが、手持ちぶたさになると、仲間の行動が気になり落ち着かなくなってしまうようです。はちみつでは、帰りのミーティング前に、ティータイムがあります。そこで、Aさんに仲間が飲むコーヒーを、昼休みに淹れて貰うようにしました。

Aさんに、仲間にコーヒーを淹れる仕事をお願いしたところ、快く「いいよ！」と引き受けてくれました。最初は、戸惑いながら職員と一緒にコーヒーを淹れていましたが、日が経つにつれて、一人で準備を行い、上手にコーヒーを淹れる様になりました。コーヒーを淹れている時や、コーヒーを飲み終わった後に仲間から「ありがとう！」と言われると、嬉しそうにしたり、時には「やったー！」とガッツポーズをする姿が見られます。

Aさんは、コーヒーを淹れる様になってから手持ちぶたさな時間が減り、落ち着いて過ごす姿が見られる様になりました。多くの仲間から「ありがとう！」と感謝される事で、やりがいを感じ、向上心が生まれている様に思います。

出席を確認します！

はちみつでは、朝と帰りにミーティングを行っています。このミーティングで出席確認を担当しているCさんは、いつも元気で、花あかりのムードメーカーです。ただ、予定が分からないと不安になって何度も確認しています。Cさんが特に気になるのは、誰が休みで誰が来るのか、という事でした。そんなCさんが毎日安心して過ごせるように、出席確認をお願いします。

出席確認は、ホワイトボードに貼られた仲間の写真を見ながら「〇〇さん！」と名前を呼んでいます。始めたばかりの頃は、仲間や職員の顔と名前が一致せず、みんなに教わりながら行っていました。今でも、すぐに名前が出て来ない事もありますが、いつも元気良く「〇〇さーん！」と名前を呼び、呼ばれた仲間も嬉しそう

に「はい！」と返事をしています。以前までは職員がホワイトボードに写真を貼り準備をしていましたが、近頃は昼休みになるとCさんから進んで準備をしてくれています。

Cさんが出席確認を行うようになってから、はちみつに来る事を楽しみにされている様子がうかがえます。明日誰が来て、誰が休みなのかが分かる事で、安心する事ができているのだと思います。自ら準備する姿から、出席確認は自分の役割だと、はりきっている事が分かります。仲間に返事を返して貰えるのも嬉しい様で、やりがいを感じているCさんです。、

竹配り

はちみつでは、毎朝、竹の棒を使ってストレッチ体操を行います。恥ずかしがり屋のDさんに、この体操で使う竹の棒を、仲間全員に配る仕事をお願いしました。ここでは、Dさんが、竹配りにより変わっていく姿を紹介させていただきます。

Dさんが、竹配りを始めた時は、恥ずかしくてなかなか仲間に配る事が出来ませんでした。毎日続ける事で段々と慣れ、仲間から「ありがとう！」と言われると、少し恥ずかしそうにしていますが、とても嬉しそうでした。最近では、恥ずかしがらずに、ストレッチ体操が始まる前になると笑顔で竹を準備して、仲間一人ひとりに配って歩いてくれます。竹配りを通して仲間との関わりが増え、昼休みに自ら進んで「公園へ行こう！」と、仲間を誘うなど、積極的に仲間と関わる姿が見られます。

恥ずかしがり屋で人見知りなDさんですが、本当はもっと仲間と仲良くなりたいと思っているようでした。どうしたら積極的に自分からコミュにケーションをとれるようになるかと考え、提案したのが「竹配り」でした。一人ひとりに配るので、一日一回は、自然と全員とコミュニケーションをとる事になります。そして仲間から「ありがとう！」と感謝される事でやりがいも感じていると思います。

まとめ

本年度を振り返ると、重点目標を基に、役割を通して仲間が生き生きと過ごしている姿が、多く見られました。苦手な事を完全に克服するのは難しいです。苦手と上手に付き合いながら、楽しく過ごせるように、“苦手なところに手を当てる”支援を心がけています。多くの役割は、そんな支援の延長にあります。役割を通して注目される、他者との関わりが増える、「ありがとう！」と感謝される。その繰り返しは仲間のやりがいとなっていくと考えます。「メリハリを持った生活」については、本年度からグループホームを利用する仲間もいて心配していましたが、ほとんど影響なく、落ち着いて過ごされています。休む時、活動する時、車に乗る時など各自で声を掛け合いながら動いている花あかりです。来年度も元気に楽しく過ごして行けるよう、支援していきたいと思っています。



(写真：八フェス会場内に飾った竹。みんなで絵を描いた。これから組み立てるところ)

4 黒のビロード

宮本英恵 本田郷士 上野就史 渡邊昌代 嶺岸みゆき
北原晶子 志保澤優子 伊藤和正 河合長子 上村ルミ子



黒のビロードは、4月に新しい仲間を迎え10名でスタートし、現在は8名になりました。

今年度は、「仲間たちの得意なこと・好きなことを活かした取り組みを通して、やりがいを感じてもらおう。」「和やかな雰囲気の中で、仲間同士の関わりを大事にする。」という2つの重点目標を掲げました。ひとりひとりの「得意」や「好き」に寄り添い、仲間たちの関係性を重視することで、今では一つの家族のような一体感が生まれてきました。そんな仲間たちの素敵な姿を、エピソードと共にご紹介します。

くびったけ先生！！

Aさんは朝や帰りのミーティングでは司会を務め、体操では率先して音頭をとってくれる黒のビロードの中心的存在です。そんなAさんは、以前通っていた他事業所では、人前に立ち、発言することも少なく静かに部屋のはじっこで過ごされていることが多かったそうです。ここでは、見事に変身をとげたAさんのお話を紹介します。

黒のビロードに入ったAさんですが、中々馴染むことが出来ない様子でした。お話をするのは得意なので、朝と帰りの司会をお願いすることにしました。はじめは緊張しながらも頑張って務めてくださいました。月日が流れ、いまでは時計を確認し、ミーティングの時間になると他の仲間に「ミーティングが始まるよ」と声を掛け、円滑な進行をしてくださいます。

ある朝の体操の時間、首をのばすストレッチと、竹を使ったストレッチの先導を頼まれ、その際「くびったけ先生」と名乗り、「くびったけ先生～」と呼ばれると「は～い！…それでは首のストレッチから始めます」と元気に返事をしています。黒のビロードには、毎朝Aさんの元気な声が響き渡っています。

Aさんは人前でしゃべることや仲間との関わりが苦手だと思っていました。しかし、Aさんと過ごしていると、むしろ人前で話すことや、人と関わることは好きなように感じました。一方でAさんは我慢をすることが苦手で、人との関わりで自分の思い通りにならなかったり、イヤなことを言われたりすると気持ちを自制することができず、感情があふれてしま



ます。そんな姿に手を当て、静かに居られる場所でAさんが落ち着くまで居てもらい、気持ちに寄り添いながら、説明をするようにしています。そのような支援を続けた所、少しずつ自分で気持ちを切り替えられるようになりました。仲間との関わりを持つことで、楽しそうに、時にはふざけてみたりしながら笑顔で過ごしています。今後も、黒のビロードのムードメーカーとして楽しい毎日を送っていただきたいと思います。

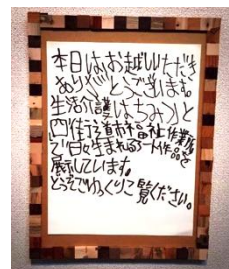
(写真：朝の体操風景)

書いて魅せます！

今年度も四街道市民ギャラリーにて、作品展「HONEY COME TURE 2025」が開催されました。仲間たちは、作品を出品するだけでなく準備も自分たちで行っています。黒のビロードでも、作品展を成功させるため、力を合わせて準備に取り組みました。その中で、自分の得意を活かして活躍してくれた B さんのエピソードを紹介させていただきます。

作品展準備には、展示室に飾る案内文を書く作業がありました。そこで、文字を書くのが得意な B さんが抜擢されました。職員から「入口に展示するあいさつ文を書いてほしいです」と頼まれた B さん、すぐには取りかからず、一旦その場を離れ、館内をひと回りして戻ってきました。そして席に着くと、あいさつ文を書き始めました。真剣な表情で机に向かい、手早く書き終えた B さん。出来上がりを見た仲間や職員から「やっぱり B さんの文字はいいね！」と褒められると、照れくさそうに笑っていました。

B さんの文字は、一枚の紙の中に絶妙なバランスで配置されており、ひとつのアート作品として成り立っています。自然と人の目を引き、来場された方からも「印刷されている文章よりも、彼の文字の方が読みたくなる」など、たくさんの称賛の言葉をいただきました。追加で、展示室の説明文も依頼され、見事に書き上げました。



頼みごとをされた B さんがその場を一度離れたのは、「何をどうすればいいのか」を自分の中で整理する時間が欲しかったからだと思います。職員は急かすような声かけはせず、何をどうするのかを、短く分かりやすく呼びかけていました。また、B さんのタイミングで取りかかれるよう、机に紙とペンと見本を置いて、B さんが作業できる環境をつくりました。部屋に戻ってきた B さんは、自分のために用意された場所があることで「書く」という気持ちになり、安心して取り組めたのだと思います。自分の得意なことで役目を果たし、たくさんの人に褒められた経験は、B さんにとって大きな成功体験となったのではないのでしょうか。



秘めていた特技！

誠実で友達も多く笑顔の絶えない C さん。どんなことにも積極的に取り組む力を持っています。室内清掃のモップがけは一人で全館をきれいに掃除して下さいますし、餅つきではジャンプをしながら全力でついて、みんなに拍手喝采をもらう人気者です。一方で、いったん気持ちが落ちてしまうと立て直すのが苦手で、体調不良を訴え、何も手につかず、うつむいて過ごすことが多くなります。私たちは、長く通う C さんの得意・苦手を分かっていると思っていましたが、最近新しい一面を知ることができました。

新春スポーツ大会の競技を練習しているときのこと。Cさんに、特技があることが新たに判明しました。それは、縄跳びです。縄跳びを走り跳びしてリレーをする競技「縄跳びリレー」の練習が全ホームではじまりました。縄跳びは跳ぶだけでも難しく、みんな苦戦していました。そんな中、なんとCさんは一人だけ二重跳びを飛ばうとしたのです。びっくりして、ご家族に伺ったところ、学生時代は大得意だったとのこと。時が経っても体で覚えていたものは失われないものですね。自然と体が動き、二重跳び、そして走り跳びも完璧。みんなのお手本になっていました。

スポーツ大会本番、トップでバトンをもらったアンカーのCさん。黒のビロード全員が「勝った！」と思いました。ゴールまであと2m・・・！おっと、Cさん、まさかのゴール手前で二重跳びを披露・・・！会場から拍手喝采！し、しかし・・・後から2ホームが先にゴールしてしまい、結果は3位に。それでもCさんはガッツポーズと大きなピースサイン、満面の笑みでした。

競技後、ホームに戻ってきたCさんは、自分から積極的に床のモップがけをして下さいました。テーブルの下、部屋の角など、いつも以上にしっかりと丁寧にかけています。そんなCさんの姿をみて、ほかの仲間も「じゃあ次は僕も！」と、モップバトンタッチ。残念ながらスポーツ大会ではピカピカのメダルは貰えませんが、黒のビロードの床はピカピカになりました。

まだまだ私たちが知らない仲間の姿があります。もしかすると、日々の活動以外の、行事や外出など、いつもと違う新しいことがあるときに、そのような一面に出会えるのかもしれませんが、そして、賞賛や注目は手応えと自信となり、いつものモップがけも、いつも以上に力を入れることが出来たのだと思います。Cさんを中心に、来年のスポーツ大会は優勝を狙っています。

まとめ

黒のビロードは3年目を迎え、仲間同士が互いを意識し、助け合う関係がいつそう深まってきたと感じています。これまであまり接点のなかった仲間同士が会話を交わすようになったり、テーブルを拭いている仲間がいれば周囲の物をどかして手伝ったりと、積極的な姿が多く見られるようになりました。休み時間にはソファに並んで座り、リラックスして過ごす姿もあり、穏やかな時間が流れています。



今年は、電車やモノレールを利用した外出を2回行いました。普段は車での移動が多いため、仲間たちにとっては少しハードルが高いのではと心配していました。しかし、そんな職員の懸念をよそに、仲間たちは車窓から景色を眺めたり、乗客の方とコミュニケーションを取ったりと、思い思いに楽しんでいました。一人では不安に感じることも、安心できる仲間と一緒にだからこそ見られた姿だと思います。今後も、仲間たちが安心して過ごせる、暖かなホームづくりを目指していきたいです。

(写真：物井駅で電車を待つ)

・生産活動

1-タートルズ（木工・箒班） 渡邊 京子 横瀬 さち 上村 ルミ子 渡邊 昌代 沼澤 明姫 高橋 美紀 塚本 優実 伊藤 和正 河合 長子 高杉 和明 堀 柊人

タートルズは、仲間 16 名、職員 10 名、ボランティア 1 名で木工製品と亀崎箒を生産しています。今年度は、『仲間の得意を活かした製品づくりをし、手ごたえを感じられるように支援する。』という目標で取り組んできました。仲間たちはこれまで、木工製品づくりに取り組んできたこともあり、電動工具が得意になってきました。今年は、電動工具を上手に使いこなせるようになったので、バンブーランタン（竹の灯籠）の制作にも挑戦することができました。挑戦することで仲間一人ひとりの役割を探し、見つけ、実践できた 1 年となりました。取り組みを通して、仲間の新たな姿がたくさん見られたのでご紹介いたします。

私に出来ることは何だろう

A さんは手先がとても器用で、作業全般を丁寧に行うことができます。ものづくりが好きで、折り紙や色塗りは得意です。指先を使う作業が苦手という一面があり、作業が思うように進まないことがありました。

この日は、蜂蜜の梱包作業がありました。作業工程は、「①タグに紐を通す。」「②タグを通した紐を結ぶ。」の 2 つの工程があります。A さんは②の紐を結ぶ作業に職員と一緒に何度か挑戦しました。しかし、うまく結ぶことができず、途中で手を止めてしまいました。

その時、A さんは周りの作業を観察し、紐に通すタグを一枚ずつきれいに並べ始めました。タグを並べることで、ほかの人はスムーズに紐に通すことができ、作業効率が大きく向上しました。みんなから「ありがとう！」「作業がしやすくなった!!」と言われた A さんは嬉しそうな表情でした。それ以来、蜂蜜の梱包作業の時には、タグを並べる係に任命され活躍されています。

A さんの手が止まっていた時、みんなの作業を静かに観察しているようでした。その姿から、A さんは決して仕事を投げだしたわけではないと感じ、そっと見守りました。すると A さん自身が自分で出来そうなことを探し自分からやり始めてくれたのです。「仲間のために自分には何が出来るか」考えてくれる A さんは頼もしく、今後のタートルズでの活躍される姿が楽しみです。

私に任せて！

B さんは「のこぎり」「やすりがけ」も上手ですが、電動工具も器用に使いこなします。しかし、動くことが億劫なのか、準備や片付けは自分から積極的になれません。職員は B さんの責任感があり、面倒見の良いところに目を向け、あえて B さんに色々と頼ってみることにしました。

ある日の作業です。「今日はランタンの穴あけ作業ですが、道具は何が必要ですかね？」と聞いてみました。すると B さんは「電動ドリルがいるよ！」とすぐに答えて、道具の準備をしてくれました。「ありがとう！助かります！」と伝えると、「何でも聞いて！」と自信に満ち溢れた様子でした。別の日、B さんが通院に行くので「頼りにしている B さんがいなくて困っちゃうな～」という「通院から戻ってきたら、私がやるよ！」と答えていました。

B さんに感謝の言葉や頼りにしていることを伝え続けた結果、今では、活動の時間が近づくと、各ホームに顔を出して「〇〇さん！もうすぐ活動の時間だよ！」と声を掛けてくれたり、作業で困っている仲間に対して「私がやろうか？」と助けてくれる姿がたくさん見られるようになりました。これからも、B さんの良い所がどんどん活かせる支援をしていきたいと思います。

褒めまくり大作戦！

C さんは高い集中力と手先の器用さを活かして丁寧に作業するという強みがあります。しかし、切り替えが苦手で、作業をやり始めるまで時間がかかることがありました。そこで、ある作戦を立て、実行したところ、C さんに変化が見られました。

のこぎりで竹を切る作業があります。C さんに声をかけますが、なかなか作業に参加することができません。どうすれば C さんが意欲的に作業できるか考え、みんなで「褒めまくり大作戦!!」を決行しました。C さんの順番が回ってきました。呼ばれても立ち上がれない C さんに、みんなから「頑張れー!」「C さん!



C さん!」と手拍子や声援が送られます。それを受けて、C さんは嬉しそうに作業台へ移動しました。ノコギリをする C さんには「丁寧に切れている!」「よっ! 職人!」と声がかかります。竹を切り落とした後も「すごい!」「上手に切れたね!」と称賛を受けて C さんは満面の笑みで席に戻りました。この「褒めまくり大作戦!!」以降、C さんは意欲的に作業へ向かう姿が見られるようになりました。

今回の取り組みでは、C さんの良い所や頑張りを積極的に言葉にし、C さんにスポットがあたるようにしました。得意なところを評価された経験が、作業への前向きな気持ちにつながる事が感じられました。声援があることで、安心して作業に向かうことができ、その中で得られた達成感が、意欲につながっていたように思います。

まとめ

これらのエピソードは、今年度の取り組みのほんの一部です。エピソードにもあるように、A さんの気づきからの行動や B さんの頼られることで生まれた積極的な一面、そして C さんの周りから称賛されて意欲になる姿はとても印象的でした。仲間一人ひとりが自分の得意を生かし、役割を見つけていく姿がたくさん見られた 1 年となりました。





昨年度の反省を踏まえ、今年度は新製品バンブーラントアン(写真 P14)の開発に取り組み、実際に形にすることができました。しかし、売り上げはなかなか伸びず、価格設定や見せ方等を見直しながら試行錯誤を重ねています。今後も仲間の得意な所を活かしながら、新製品を開発していきたいと思います。

(写真:「なかまカレンダー」を届けに、みんなで地域づくりセンターへ)



○お礼

今年度は、四街道市吉岡の Y・Y・KNOWSON の岡田様より孟宗竹をご提供頂きました。仲間たちとみんなで竹の切り出しにも行き、貴重な経験となりました。竹は大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

2-クレインズ(織物班)

緑川 景太 岩館 和大 北林 智子 志保澤 優子
廣井 美奈 穴澤 悦子 高杉 洋子
高橋 ひなた 大淵 友那

クレインズは、男性8名女性3名の計11名で活動しています。今年度は「販売目的を明確にして、全員参加型の支援を行っていく」という目標を立てて活動してきました。製品作りから販売まで仲間たちが話し合い、協力する場面が見られました。そんなエピソードをご紹介します。

次よろしくね!

Aさんは頑張り屋さんで、お話も上手で仲間に声をかけてくれます。新しい作業でも率先して動くAさんですが、頑張りすぎてしまうところがあります。Aさんがしたら頑張りすぎず、且つ達成感や充実感を感じられるのかを考えました。

その日もAさんは黙々と機織りをしていました。はじめは笑顔でしたが、段々と表情がこわばり鼻息も荒くなってきていました。そんなAさんに職員が「その糸が終わったら次のひとを指名してあげよう!」と提案をしました。作業にひと段落がついたAさんは「Bさん次よろしくね」とバトンタッチ。任されたBさんはにっこり微笑んで交代し、Aさんの表情もやわらかくなっていました。

Aさんの「頑張りすぎてしまう」という弱点を仲間に協力してもらうことで回避できた場面でした。Aさんは今織っている布を自分だけでやりきらなければならないと思っていたかもしれません。職員が「次の人を・・・」と声をかけたことで、「仲間に頼っても良いのだ」「全部一人でやらなくていいのだ」と思い直すことができ、Aさんの肩の力が抜けたようにも見えました。次の人を指名することも大切です。クレインズには任せられる仲間がたくさん

んいます。Aさんに名前を呼ばれた仲間も「頼まれた」という自信を持って機織り機に座り、続きから織っていきます。クレインズの布は仲間たちのバトンを繋いで織られているのです。仲間たちを頼ることでAさんが頑張りすぎてしまうことはなくなりました。

僕の強み

Cさんは、元々工作が大好きで、造形サークルなどで数々の作品を生みだしています。機織りもとても上手でクレインズでは唯一無二のスピードと正確さを誇ります。しかし、機織りに集中すると、全て織り終わるまで止められなくなってしまう弱点もあります。Cさんが機織り以外の作業においても力を発揮できる機会を探していました。

ハフェスが近くなってきた頃、ボランティアさんから「たん物の切れ端でしおりを作ってみてはどうか」という提案があり、1日しおり作りをする日を作りました。この日は織り機は出ませんでした。Cさんの前にハサミと切れ端を用意し、「細かく切ってください」と伝えて見本を渡しました。すると持ち前の器用さを発揮し、切れ端が細かくなっていきました。自分の分が終わると、隣の仲間の分まで進んで手伝ってくれました。器用さだけでなく高い集中力も発揮し、素敵なしおりが完成しました。このしおりは、ハフェスの来場者の方へ配ることが出来ました。

しおり作りの「切れ端を切る」という作業はCさんにとって“終わり”が目に見え、見通しが持てる作業でした。最近では、織り物でも「このボビンが終わったら交代ですよ」と先に声をかけておくとCさんの中で終わりが明確になり、折り合いをつけられるようになってきました。今後ますますCさんの活躍が期待されます。

その一言で

Dさんは今年度、クレインズの新たな仲間の一員として一緒に頑張ってきました。Dさんはクレインズ全体のモチベーションを高めてくれます。一方で、細かい作業は苦手なため、職員と一緒に作業をしています。そんなDさんですが仲間が悩んでいる姿を見て、慣れない活動の中、素敵な声かけが聞こえてきました。

ハフェスの売り上げを集計している時の出来事です。いつも売り上げの計算を担当してくれる仲間が計算に困り、諦めそうになる様子が見られました。みんなが見守っている中Dさんから「がんばれ！」と一言！それをきっかけにクレインズ全員が計算担当を応援し始めました。計算担当の方もみんなからの応援に「ありがとう」と答え、なんとか計算し終えることができました。

計算をしていたのは、Dさんの事をいつも助けてくれている先輩でした。困っている先輩を見ていたDさんが「自分も助けよう」と思い、咄嗟に出た一言だったと思います。計算をしていたのは一人ですが、応援を含むとみんなで売り上げを計算したクレインズです。今ではDさんもすっかりクレインズに慣れて、仲間と助け合い協力する姿が見られています。

まとめ

クレインズは仲間のことを考えられる素敵な活動班です。販売会後には売り上げをみんなで集計し、仲間が主体的に「一番売れたもの」「そうでないもの」を話し合っています。また、売り上げ発表の際には売れた商品一つひとつに全員で「頑張った」と喜びました。普段の作業以外にも、ひみつのおしゃれ工房さん（※）からお仕事をいただきます。今年度は、ツイード生地製作のオーダーもお受けしました。生地は、ひみつのおしゃれ工房さんを通じて、某ブランドさんの元へ届き、東京コレクションというファッションショーでお披露目されたそうです。

製品が完成し販売するには助け合いと協力が必要です。重点目標にある通り、全員参加型として作業を分担しみんなで製品をことができ、これからの仲間たちの「得意なところに目を向け、苦手なところに手を当てる」支援を意識していきたいです。



※ひみつのおしゃれ工房（四街道市大日）・・・子育てや介護、障がいなどさまざまな理由で外で働くことがむずかしい人たちに自宅で服作りの手伝いを依頼している。（HP より）

3-ゴーツ（清掃班）

本田郷土 緑川景太 高田有啓 山本鮎実 上野就史
飯野洋平 嶺岸みゆき 北原晶子 山畑遼佑 河野佐知子
遠矢祐子 櫻井拓 知脇風香

ゴーツは現在仲間11名、職員13名で活動しています。今年度の重点目標は「地域に根差した生産活動を行う」「天職をみつけよう」の二点です。これは、法人理念に基づき設定しました。ゴーツは清掃活動を中心に、近隣の公園整備、市の建物の環境整備、農園の仕事など、様々な仕事をいただいておりますが、この「地域に根差した」という言葉を常に意識しながら活動を行っています。また、活動の中で、自分の得意を見つけ、それを生かし、楽しく仕事ができたらと考え、仲間一人ひとりに合った「天職」を見つけることを大事に行ってきました。

先輩！！

Aさんは、ゴーツ発足から活動を共に支えてくださっている仲間であり、通常のゴーツの活動に加え、畑楽農園の作業にも意欲的に参加されています。Aさんは、職員との会話をしっかりと記憶し、真面目に取り組まれている一方で、先の予定や、初めての作業内容に対して不安を感じやすいところがあります。そんなAさんは、いまでは先輩として仲間を引っ張る役目も担っています。

夏前、ある日の活動日のことです。Aさんは職員に、ゴーツの一日の活動内容を書いたボードを指さし、「(農園の仕事は)どこでやるの」「車には乗る?」「どの車で行くの?」不安そうな表情で聞いてきました。一通り説明を受けると頷いて元の作業へ戻りますが、また数分後には同じ質問をしに、職員のもとへやってきま

す。その日は苗の植え付けの作業でした。畑へ着き、説明を畑楽農園の方から説明を受けます。そして、いざ苗植えに挑戦です。作業中は「こう?」「あってる?」と一つの動作を行うたびに不安そうな表情で職員へ問いかけます。その日は、その後も一つ一つの動作を丁寧に確認しながら進めていました。

その日から半年と少し経った現在。一緒に畑仕事をする仲間が増え、前は不安そうに予定を聞いていた A さんは、畑仕事の後輩の手を取り、「いくよ」といわんばかりに靴を準備し、車まで一緒にやってきます。畑についてからも「おー! (すごい)」と歓声をあげ、拍手しながら仲間の仕事ぶりを褒める姿も。そして、自身の任された仕事も、誇らしげな表情で進めていました。

スケジュールがわからない中で日々生活を送ることは、不安が大きいことだと思います。今回は見通しを具体的に示し、予定の確認を A さんと個別に行うことを継続したことが、不安の軽減と主体的な行動につながったと考えられます。不安そうだった姿から一転して、活動に対し自信をもって取り組む A さんはとても誇らしげです。先輩として仲間へ声をかける姿は、はちみつの中でも一際輝いています。今後も、一人ひとりが働きやすい環境づくりを、ゴーツ全体で考えていきたいです。

好きから繋がる

ゴーツは公園整備のほかにも室内清掃、洗車、そのほかにも様々な仕事をしています。活動の中で自分の武器(得意・好きな作業)を見つけた方がいました。B さんは、草抜きや流し掃除、洗車といった水を使った作業が得意で、その集中力は凄まじいです。しかし B さんには、親しい人と過ごすことが好きで、ほかの職員や仲間と打ち解けるまでに時間がかかる一面がありました。ゴーツの活動を通して、他者と新しく関係性を築いていく B さんのお話をご紹介します。

いつも通り草抜きを行ってくださる B さんは、ホームが違う職員と一緒にになると、親しい職員のもとへ行き、職員の手を引いて自分の活動場所まで呼び、「一緒にやろう」と誘います。慣れた人が近くにいないと落ち着かない様子でした。しかし、月日が経つにつれて B さんに変化が現れました。洗車や流し掃除、草抜きなど、B さんが好きな活動内容の時を中心に、同ホーム以外の仲間や職員とも一緒に作業できる時間が増えてきました。「一緒に〇〇しましょう」と職員が声をかけると「はい!」と言い、ニカッとさわやかな笑顔を向けてくれます。



B さんは、好きな活動を通して仲間との輪を広げていきました。今では昼休みなど自分から他ホームを訪ね、様々な人と笑顔でコミュニケーションをとっています。自分の「ホーム」でもなく「ゴーツ」でもない、「第三の場」ができることで、B さんの笑顔も増えているように感じます。今後もゴーツでは、B さんの好きな活動を通じた人との繋がりを大事にしていきたいと思っています。

(写真：草刈りが終わった公園を気持ちよさそうに走る)

うれしい、たのしい、だいすき！

Cさんはゴーツ一年目の方です。はちみつに来たばかりの頃は、職員や仲間の手を取り不安そうな表情をしていることがありました。そこで、Cさんがはちみつに慣れ、楽しく活動を行うにはどうしたら良いか、というところに焦点を当てた取り組みをご紹介します。

様々なゴーツの仕事内容を試していただくと、Cさんは中でも草刈り機を気に入っている様子でした。何度か繰り返すと慣れた様子で、自ら笑顔で草刈り機を押し、休憩の時間が来るまで足を止めずに進み続けます。またある時、職員が高圧洗浄機を準備し、実際に車に当て、洗車しているところを見ると「(あれ)やりたい」と職員の手を取り、伝えています。その後はニコニコと笑顔で洗車を続けるCさんです。「Cさんありがとう！」「すごいね」と仲間からも声をかけられことも増え、今では、ゴーツの活動が始まり、外に出ると笑顔で草刈り機と公園を指さし、笑顔で職員に「行こう！」と声をかけてくれています！

「(草刈り機、高圧洗浄機)楽しい」を通して新しい表情や姿を見せてくださったCさん。ゴーツに入り、一年が経ちましたが、どんどん新しい姿が見られています。今後も、仲間たちにとって手応えの感じられる活動内容を考えるとともに、「ゴーツ楽しみ」と思っただけのような雰囲気作りを行っていきたいです。

まとめ

「天職」は、心から満足感や、やりがいを感じて取り組める仕事という意味があります。この事業報告書を書くにあたって、一年間の活動を振り返った時、ここには書ききれないほどのエピソードが浮かびました。そして、誰しも得意なこと、不得意なことがある中で、「仲間が楽しく、またやりたいと思える活動」と「地域に必要とされる活動」をどのようにしたら両立することができるのか、仲間と共に考える機会が多くありました。今後も、仲間たちの「楽しさ」や「手応えを感じられる活動」に重点を置き、地域に必要とされるゴーツを創って行きたいと思います。

(写真：「運ぶ」という天職を見つけている)



・サークル

サークル活動は、毎月2回、水曜日の午後に行っています。造形・スポーツ・カラオケの3つから、自分が行きたい所を選びます。いつも同じサークルを選ぶ方も居れば、内容によって違うサークルへ行く方も居ます。ホームとも、生産活動とも違う人間関係が、サークルにはあります。仲間たちは、それぞれのサークルで、好きな時間を過ごしています。

○ 造形サークル

創作活動が好きな方が集まります。固定メンバーは4～6名、ときには10名以上参加する日もありました。「工作」が好きな方が多いので、今年度後半は毎月、季節に合わせた「工作」を行いました。ハサミ、セロハンテープ、のり、トイレットペーパー芯、折り紙など、身近な道具と材料を使い、作り方の説明書と見本をよく見ながら、「次は～」と作り進めて、できあがり！何もなかったところに、鬼・雪だるま・つるし雛・タンポポなどが生まれました。（写真は、紙の雪だるま）できあがった作品を嬉しそうにホームへ持ち帰る仲間の姿を見て、「私も次は造形に行こうかな」という方が増えました。



材料の持ち込みも歓迎です。野菜の絵を描く日に、常連のAさんが「これを使いたい！」と、カラーセロファンを持って来てくれました。そして青と赤のセロファンを重ね、ナスやさつまいもの色を表現していました（写真）。

これからも、仲間たちが「楽しい！」「面白い！」と思うプログラムを用意しつつ、「こうしたい！」「これをやりたい！」という想いに寄り添い、自由に表現できるよう支援していきます。

○ カラオケサークル

はちみつで一番人気のサークルです。各ホームから歌好きな仲間が集まり、毎回満員御礼でした。参加者は、自分が歌いたい曲を順番にリクエストしています。いつも違う曲にする方もいれば、新しい曲にする方もいますが、「〇〇さんは〇〇（曲やアーティスト）だね！」と、仲間の十八番は大体みんな覚えています。

Bさんはカラオケサークルの常連で、盛り上げ上手です。仲間の歌に合わせて、ノリノリで手拍子を叩き、「へいへーい！」と拳を突き上げ、本物のライブのように楽しんでいます。自身が歌う番には、オリジナルの振りつけで、コブシを効かせて歌い上げます。そんなBさんにつられて仲間たちも自然とノリノリです。自分だけではなく、周りの人を惹きつけ、楽しませてくれるBさんです。

また、昨年に引き続き、プロジェクターなどを率先して準備してくれるCさんは、カラオケサークルの部長と呼ばれています。カラオケサークルは、盛り上げ隊長のBさんや、部長のCさんを中心に、自分だけでなく、みんなで楽しむという意識があります。今年度を経て、より一層サークルとしての団結が深まった様に思います。

○ スポーツサークル

スポーツサークルは、天気によって左右されます。晴れていれば公園に行きサッカーやランニングなどで汗をかいています。室内開催も多くありましたが、定番のボーリングだけでなく、テーブルホッケーやボッチャなど、今年度は室内競技のバリエーションを増やし、楽しく体を動かしました。(写真：タオル掛けゲーム)

毎回スポーツサークルを楽しみにしている D さんは、昼休みになると職員に「今日は曇りだけ外？中？準備するものはある？」と聞いてくれます。サークルが始まると、「僕がボールを持って行く！」「僕が点数書く！」「片付けやる！」などと積極的です。そんな D さんの姿を見て、「僕も一緒に準備する！」「私も運ぶ！」と、優しい輪が広がります。スポーツサークルは、みんなを引っ張って行ってくれる C さんを中心に、仲間同士がお互いに気遣い合い、チームワーク抜群です。これからも、そんな温かい雰囲気のスポーツサークルを続けていきたいと思います。



・行事

月	行事内容	イベント
4 月	・入所式	
5 月	・ハイキング	・大きなテーブル
6 月		
7 月	・作品展「HONEYSCOME TRUE 2025」	
8 月	・流しそうめん(作業所と合同)	・ふるさと祭り
9 月		・ボッチャ大会
10 月		・よつかいどうユニバーサル工業フェスタ 2025
11 月		・ちばユニバーサル農業フェスタ in 四街道 2025
12 月	・ハフェス ・餅つき ・お疲れ様パーティー(作業所と合同)	
1 月	・二十歳を祝う集い ・新春スポーツ大会(作業所と合同)	・初詣
2 月		・豆まき (節分) ・ボッチャ大会
3 月	・還暦を祝う会	

流しそうめん

今年は 8 月に流しそうめんを行いました。今回は『はちみつと作業所の仲間達で、そうめんを美味しく味わおう！』を目標に掲げました。まずは地域の竹林へ竹を取りに行くことからスタートです。竹は想像を超える重さでしたが、仲間と力を合わせることで軽々と運べました。そこから竹を割り、や



すり掛けをして準備完了です。いざ、そうめんが流れ始めると、箸やフォークを巧みに使って次々とゲット。自分の手で掴めたと

きの表情はキラキラしていました！一から自分たちで準備をしたので、手ごたえも感じられ、そうめんを美味しく味わうことができました。



もちつき

年越しまであと3週間。今年のもちつきは『仲間との絆を深めるとともに、来年も良い1年になることを祈る』というテーマを掲げ取り組みました。各ホームで食材や調理器具、杵臼の準備をし、いよいよスタート。杵を振りかぶり、気合いが入る仲間に、黄色い声援が送られます。「よいしょー！よいしょー！」と、全員が餅をつき、ホームの垣根を超えて絆が深まりました。みんなで力を合わせて、美味しいお餅が出来上がりました。「来年も長生き！良い1年になりますように！・・・」

次は作業所の仲間たちも一緒に参加できると、さらに盛り上がりそうです。



センターの広い会場をお借りしました。企画・進行は、仲間主体の実行委員会が行います。作業所とはオンラインでミーティングを重ね、どんなレクをするか、食事や飲み物は何にするか等話し合いました。当日は、ビンゴ大会や豪華なお弁当、1年間を振り返るムービーの上映など、実行委員考案の企画で大盛り上がりでした。

開会式では、オープニングアクトとして、黒のビロードがピンクレディの「UFO」のダンスを披露。他のホームの仲間達も次々に舞台に上がっていました。今回、初めての会場でしたので、環境の変化に敏感な仲間が心配でしたが、みんな落ち着いた様子で会場に入り、いつもの仲間と楽しい時間を過ごすことができました。



(上：オープニングはみんなで UFO♪)

(右下：ビンゴの景品はお米！)

(左下：豪華なお弁当に舌鼓を打つ)

おつかれさまパーティー



昨年に引き続き、今年もはちみつと作業所合同で開催しました。全体で100名以上の大所帯になるため、今年も四街道市文化

新春スポーツ大会

1月に開催しました。風が強く寒い中でしたが、仲間たちは元気に参加しました。競技は、各ホームが「自分たちが勝てると思う競技」を1つずつ出し、今年は「綱引き」「25mリレー」「おたまりリレー」「縄跳びリレー」「大玉転がし」の5種目を行いました。「大玉転がし」は、ゴールに置いた軽トラの荷台に大玉を乗せるまでの速さ

を競いました。みんな、普段触れることがない大玉に興味津々で、練習中は叩いてみたり、抱きついて感触を楽しんでみたりしていました。いざ競技が始まると真剣に大玉を転がし、ゴールまで一直線！そして協力して荷台に持ち上げていました。「綱引き」は毎年一番盛り上がります。今年も各ホームから選抜された代表選手が一生懸命に綱を引っ張り合いました。次に戦う相手チームの観察も忘れません。並ぶ順番を考

え、このホームが強いから気を付けようなど作戦会議を行う姿は真剣そのものです。応援席では、応援旗を振り、声が枯れるまで応援する仲間もいて、今年も白熱した新春スポーツ大会でした。

優勝は・・・作業所。なんと2連覇の快挙を達成しました。悔しがらなはちみつ。来年こそ、はちみつに優勝カップを！乞うご期待です！！



○お礼 大玉と、綱引きの綱は、みそら小学校さんに毎年お借りしています。おかげで、本格的な競技ができています。ありがとうございます。

・健康管理

伊藤 美樹

2025 年度 はちみつ保健計画

4 月		7 月	健康診断	10 月		1 月	歯科健診
5 月	健康観察	8 月		11 月	予防接種	2 月	
6 月		9 月		12 月		3 月	

◎嘱託医 随時相談 ◎体調チェックシートの確認・実施 ◎体重測定（月1回）

5 月 健康相談

嘱託医「和泉内科クリニック」の和泉桂子医師が来訪され、尿検査・血圧測定・問診を実施しました。問診は、大きな拒否をする仲間もほとんどおらず、作業所の仲間と共に、和やかな空気の中で実施できました。

7 月 健康診断

協力医療機関「轟クリニック」の医師・看護師が来訪され、次の項目を実施しました。

○身体計測 ○採血 ○視力・聴力 ○胸部X線検査 ○心電図検査

今年で3回目となり、仲間達も慣れてきたように思います。普段、病院が苦手な方も、仲間の様子を見学したり、大好きな職員に付き添ってもらうことで、健診を受けることができました。中には今年初めて採血できた仲間もいました。健診結果に基づき、個別で健診内容

及び再度医療機関受診のお知らせをしています。同時に、過去の健診データと比較し、健康状態の把握に努めました。今後は、予防医療に目を向け、生活習慣の振り返り、健康増進に努めていきたいと考えています。

11月 インフルエンザ予防接種

「和泉内科クリニック」の和泉桂子医師が来訪され、希望者のみ実施いたしました。仲間たちは、不安ながらも廊下の待ち合い椅子に座って、呼ばれたら落ち着いて予防接種を受けることができました。

1月 ビーバー号巡回歯科健診

千葉県歯科医師会による歯科保健巡回診療指導です。歯科医と歯科衛生士が来訪されました。2年ぶりの巡回歯科健診でしたが、参加した全員が受けることができました。歯科医師より、「普段からよく磨けている仲間が多い」と評価していただきました。引き続き予防歯科を心がけるよう努めたいと思います。

服薬管理

- ・服薬はとても大切です。変更があった際は、服薬の状況をご家族からご連絡いただけるよう依頼しております。
- ・薬剤情報提供文書を提出していただき、薬の管理を行っております。
- ・普段服薬している薬を、非常時・災害時用の予備薬として用意していただき、医務室で保管しております。(4月・10月交換作業実施)
- ・てんかん発作時および体調不良時の対応は、「医療的ケアに関する指示書」を、主治医、または、主治医に内容を確認した上でご家族が記載し、提出していただきます。指示書に基づき医療的ケアである座薬挿肛・頓服薬の投与を実施しております。
- ・昼薬の薬セット時・配薬時は看護職によるダブルチェックに加え、投与者もチェックを行い、誤薬や飲み忘れがないように心がけております。
- ・薬品管理については、施錠可能な場所で保管し、誤飲等事故が起こらないように注意しております。

感染予防

- 感染症対策として以下の内容を実施しております
 - ・検温の実施（登所時・昼）
 - ・体温チェックシートの確認・状況把握
 - ・マスクの着用・手洗い消毒の徹底
 - ・施設内・車内・コップ等の消毒実施（毎日）
 - ・嘔吐処置ボックスの管理・設置
 - ・感染症予防研修
- 今後も環境整備に力を入れ、状況に合わせ検討・対策を継続していきます。

医務の取り組み

- 仲間と職員の健康管理と、安全な保健衛生管理に努めております
 - ・ケガの処置
 - ・体調不良時の対応
 - ・てんかん発作時の対応
 - ・誤嚥時の対応
 - ・バイタルサインの測定
 - ・精神不安定時の傾聴対応
 - ・スキントラブル時の対応
 - ・保清（爪切り、耳垢除去、入浴等）
 - ・感染症発症時の対応
 - ・御家族からの医療相談
 - ・通院同行
 - ・AED 管理(年1回職員研修実施)
 - ・昼食後の歯の仕上げ磨き

02 | 四街道市福祉作業所

金室 修平 鈴木 清美 平野 清 若名 美代子 徳田 明子
伊藤 ひろ子 布施 智美 望月 ひろみ 酒井 愛 清水 さやか

四街道福祉作業所がよつかいどう福祉会の運営になり、早いもので2年が経過しました。現在、仲間15名（職員10名）が通所しています。月曜日から木曜日は、作業、金曜日は調理や外出など余暇活動を行っています。今年度は『当法人の支援方法を基本におき、自信をもって過ごせるように一人ひとりにあわせた支援に取り組む。さらに、集団の発達の視点をもって支援する。』を重点目標にしていました。



作業所では仲間一人ひとりが役割を持ち、過ごしています。困っている仲間がいたら助けてくれるお助けヒーローもいて仲間同士で助け合い、より集団としてのまとまりができていているように感じます。そんな福祉作業所での素敵なエピソードを紹介していきます。

（写真：千葉県立美術館「うみのもり」作品展へ。仲間の作品を観に）

ありがとう！

受注の仕事は、①組み立て→②打ちこみ→③打ちこんだ製品の数を数える→④箱詰め の手順で行っています。③の工程では、100個の穴があいている板を使用し、1枚の板に打ちこんだ製品を1本ずつさして「100本」数えています（写真）。



そんな日々の作業でみつけた素敵なエピソードを紹介します。

Aさんは自分の意見を相手にはっきり伝えることができます。テキパキと動き②のうちこみ作業がとても得意です。Bさんは、③の工程が得意で、板に製品を誰よりも手早く差し込むことができます。しかし、製品がなくなっても、そのまま座って待っているBさん。すると②の打ち込みをしているAさんがBさんの様子に気が付き、製品を箱いっぱいにして「はい。持ってきたよ」と届けてくれました。Bさんは「ありがとう」と笑顔で言い、Aさんも嬉しそうに席に戻りました。二人はまた、黙々と作業を始めていました。

職員はBさんに対して手元に製品がなくなったら、一緒に取りに行ったり、自分でもらいに行くように声かけを日々行っています。そんな中、AさんはBさんが製品をもらいに行っていないことを察知し、言葉だけでなく行動でサポートしてくれました。Bさんも少しずつですが、自分からもらいに行けるようになって来ました。作業を通し、仲間同士の自発的な助け合いが生まれ、暖かい関係性が育まれています。

自信

作業所では「ひみつのおしゃれ工房さん」からお仕事をいただいています。Aさんは、手先が器用で1つひとつの作業をととても丁寧にできます。布をまっすぐ切ったり、洋服をきれいに畳むことができるため、「ひみつのおしゃれ工房さん」のお仕事をお願いしています。そんなAさんは、人前に出ることなどがあまり好きではなく、カメラを向けると顔を隠してしまうシャイな一面もあります。地域からの仕事を通して少しずつAさんに変化がみられてきました。

ひみつのおしゃれ工房さんから「スクエアパッチ」という、布を正方形に切る仕事をいただきました。Aさんにその仕事をお願いすると、「うん」と二つ返事で引き受けてくださいました。布にひかれた線を確認して、100枚以上を一人で黙々と切り進めていきました。その日の帰りのミーティング、一緒に裁断していた職員が「Aさんが一人で裁断を頑張っていました」とみんなの前で発表をすると、みんなから「すごい！」という歓声と拍手が起こりました。Aさんは照れくさそうにしていました。

ひみつのおしゃれ工房さんへ、次のお仕事を受け取りに行った際、「Aさんが裁断した布がつなぎ合わせられて1枚になりましたよ」と、出来上がった布を見せてくださいました。それを持ったAさんに、職員がカメラを向けると、Aさんは顔を隠すことなく、カメラのほうを見て、堂々と記念撮影に応じてくれました。



Aさんは、自分から発表することや、人前に立つことはあまり得意ではありません。しかし、帰りのミーティングで頑張りが認められ、周りから「すごい！」という言葉をもらったことで、少しずつ自信が出てきたのではないのでしょうか。今では、ひみつのおしゃれ工房さんから仕事をいただくと、真っ先にAさんに依頼されるようになりました。また、Aさんは、今年度の四街道市ふるさと祭りチャリティTシャツの絵に起用されたり、千葉県立美術館に立体作品が展示されるなど、その才能は眩い輝きを放っています。

クリーン大作戦

Bさんは誰よりも作業に一生懸命で真面目です。任されたことは、黙々と行ってくださいます。一方で自分のペースで物事を進めてしまう、マイペースな一面もあります。そんなBさんは、以前草刈りに行ったときに、率先して作業する姿が印象的でした。そのため、外作業で力を発揮してくださるのではないかと思います、「クリーン大作戦」という地域のごみ拾い活動のメンバーに選拔されました。

「クリーン大作戦」に行くとわかったBさん。腕に「クリーン大作戦」と書いてある腕章をつけて張り切って準備をはじめました。物井駅に集合をして、ゴミの回収場所になっているウエルシアを目指して歩き始めます。トングとゴミ袋を持ち、先頭を歩くBさん。大きなごみを見つけると率先して取りにいき、みんなを

引っ張ってくれています。そんな B さんの様子を見た、「クリーン大作戦」のメンバーたちも B さんに続けとばかりに協力しながら積極的にごみを拾ってくれました。ゴミ拾いが終わると B さんは、誇らしげな顔をしていました。

B さんは、自分のペースでゴミ拾いをしていましたが、真面目で一生懸命な姿が、周りの仲間たちに良い影響を与えました。リーダーシップをとる機会が少ない B さんですが、今回は先頭に立ち、みんなを引っ張ってくれました。誇らしげな顔をしていた B さん、「みんなで協力してゴミ拾いができた」という手応えを感じていたのかもしれません。クリーン大作戦は大成功でした。



まとめ

エピソードを振り返ると、一人ひとりが持っている力は様々です。苦手なことは誰しもありますが、そこに手を当てることが大切だと感じます。仲間たちの得意なところに目を向け、それを活かす環境をつくることで、周りにいる人たちが仲間を認めるようになってきます。仲間たちのやりがいや生きがいを考えるとき、「誰かの役に立つ」ことはとても大切だと思います。「役に立つ」ことで創られる仲間同士の関係は、集団づくりにもつながります。エピソードの中でも、仲間同士で自然に助け合う姿がたくさんみられました。これは、まさに「誰かの役に立つ」ことを通して、仲間たちがやりがいを感じているからではないでしょうか。今後も仲間たちがやりがいや生きがいを感じられるよう、“得意なところに目を向けて、苦手なところに手を当てる”支援や、環境づくりを行っていきます。そして、仲間たちが「誰かの役に立つ」という経験をたくさん重ねることができるよう支援していきたいと思います。

・健康管理

鈴木 清美

福祉作業所の仲間は、毎日元気に過ごされています。一方で、疾患を持っている仲間もいます。日々状態を観察し、体調の変化に留意しています。楽しく安全に、作業所で活動ができるように環境を整え、一人ひとりに合わせた声掛けや支援を心がけております。

5月 健康観察（13名実施）

嘱託医「和泉内科医院」の和泉医師が作業所に来訪され、健康観察を行いました。

○身長・体重・腹囲測定 ○血圧測定 ○尿簡易検査 ○問診

7月 健康診断（希望者のみ、5名実施）

「轟クリニック」の医師及び職員が、生活介護はちみつに来訪され、希望者のみ受けに行きました。

○身長・体重測定 ○視力・聴力検査 ○胸部レントゲン検査 ○心電図検査 ○採血

11月 インフルエンザ予防注射（希望者のみ、8名実施）

嘱託医の和泉医師が生活介護はちみつに来訪され、希望者のみ受けに行きました。

1月 ビーバー号歯科検診（希望者のみ、仲間10名実施）

医務の取り組み

◎ 仲間及び職員の健康管理と安全な保険衛星管理に努めております。

- ・月1回体重測定
- ・フェイスシート作成（通院状況、服薬の把握）
- ・ケガの処置
- ・体調不良時の対応
- ・誤嚥予防の対応（誤嚥の心配がある方には、昼食時の配膳弁当をキザミ食や食べやすい状態にして提供。調理時や外出先での飲食は、内容を確認し、一人一人に合わせた安全配慮を行っています）
- ・てんかん発作時の対応
- ・通院同行
- ・担当者会議
- ・服薬管理（非常時、災害時様の予備薬として用意していただき、医務室で保管）
- ・昼食時の配薬、服薬管理
- ・保清（爪切り、耳垢除去、歯磨き介助）
- ・室内の環境整備
- ・ご家庭、GHとの情報共有、相談対応
- ・AED管理

感染予防

◎ 感染症予防対策を実施しております。状況に合わせて検討、継続していきたいと考えております。

- ・検温の実施（当初時、昼）
- ・体温チェックシートの確認
- ・施設内、車内、歯ブラシ及びコップ等の消毒
- ・手洗い消毒の徹底
- ・感染症予防研修

03 | 共同生活援助 はにかむ

渡邊 京子 山畑 遼侑 高橋 昌宏 横田 麻理 関山 裕美 河合 長子 緑川 景太



はにかむは、2025年4月に開所しました。定員6名（男性）、短期入所1名です。生活介護はちみつに隣接し、地域生活支援拠点に登録しており、緊急時の受け入れなどの対応も可能です。生活介護で生活を支え、共同生活援助では暮らしを支えることを重点に据え、楽しく生活できるよう支援しています。

（写真：「葛西臨海公園」へ外出）

もうすぐ開所から一年が経過しようとしていますが、仲間たちは、はにかむでの生活にも少しずつ慣れ、安心して過ごせる空間として定着しつつあります。開所当初は、それぞれに不安を抱えている様子が見られましたが、現在では仲間同士で協力しながら食事の準備に取り組む姿や、互いの体調を気遣う様子が見られています。

また、地域連携推進会議では1名が仲間代表として参加し、みんなの意見をまとめて伝えてくださいました。共同生活を通して、安心して過ごせる仲間同士の関係性が少しずつ築かれてきているように感じます。仲間同士が協力し、支え合っている姿をご紹介します。

数字のことはお任せあれ！

数字に興味津々なAさん。普段から競馬のレースをテレビでよく観ていますが、実は馬ではなく数字を観ているのです。そんなAさんの数字好きが活かされる場面がありました。

ある晩、Aさんが、食事の準備をしていた職員に、お盆を見つめて「7枚」と伝えてくれました。お盆を数えるとそこには6枚しかありません。その日の仲間の人数は7人だったのです。1枚追加すると納得し、テーブルに並べ、さらには箸、スプーン、フォーク、ネームプレートまでお盆に乗せてくださいました。それを見た仲間たちから「ありがとう」「よくわかるね」「すごいね」と称賛され、Aさんはニコッと素敵な笑顔を見せてくれました。その日から、毎日食事の準備を手伝ってくださるようになり、今ではすっかり彼の役割になっています。Aさんのおかげで、楽しい食事の時間がスムーズに始まります。

Aさんは、数字に対する関心もあり、毎日一緒に過ごす仲間の人数も確認してくれていました。今では食事準備にAさんの存在は欠かせません。この役割を通して、仲間から感謝されることでやりがいを感じ、積極的に取り組んでいるのだと思います。

優しさは優しさで恩返し

はにかむでは、洗濯が終わると、仲間一人ひとりに各自の洗濯物を渡し、自分で干してもらうようにしています。職員と一緒に干す方や一人で干してくれる方など、自分でできる範囲で取り組んでいます。中には、洗濯物を干すことが苦手な仲間もいます。

ある日、Bさんが洗濯物を干そうとしています。洗濯ばさみが思うようにつまめません。その時、Cさんが様子を伺いに部屋に来て、一緒に干してくれました。おかげさまで、無事洗濯物干し完了です。その後しばらくすると、リビングでゆっくりしていたCさんの元へ、今度はBさんが「トントンする」と言って、Cさんの肩をマッサージ。Cさんは、肩をほぐしてもらおうと気持ち良かったようで、Bさんに「ありがとう」と声をかけ、二人に素敵な笑顔が見られました。

Bさんは自分が困っていることに気が付き、助けてくれたCさんに感謝の気持ちが芽生えたのだと思います。それが『何かをしてあげたい』という思いに変わり、肩のマッサージをしてくださったのだと思います。優しさは優しさを生むとはまさにこのことではないでしょうか。今後も仲間の優しい姿をたくさん見つけていきたいと思います。

わからないことはお任せあれ！

ドライヤーを巧みに扱うDさん。入浴後、毎日ドライヤーを準備し、自分で丁寧に髪の毛を乾かします。初めからできていたわけではなく、入居してから職員と一緒に取り組む中で徐々に使い方が上手になってきていました。

ある日短期入所を利用していたFさんがドライヤーの使い方に戸惑っている様子が見られました。そこでDさんが登場です！まずは自分がお手本として乾かすところを見せて、その後、優しく教えてくださいました。Fさんはそれに倣っ

て最後まで乾かすことに成功。Dさんに「ありがとう」と伝え、いい表情で自室に戻っていきました。この日を境に、Dさんは戸惑っている仲間に声をかけ、手を差し伸べてくださることが多くなりました。

Dさんは、はにかむでの暮らしを通して、できるようになったこと、得意になったことに自信を持ち、それを今度は誰かの役に立てたことで、やりがいに繋がったように思います。これからもやりがいを感じつつ、色んな人の役に立ち、仲間同士いい関係性を築いてほしいと思います。最後に余談ですが、Dさんはドライヤーが必要ないくらいの短髪です…(笑)

まとめ

『得意なところに目を向け、苦手なところに手を当てる』ことで、仲間たちのやりがいや達成感に繋がります。併せて、仲間同士の関係性も深まったように感じます。これは私たち職員にも言えることです。業務に取り組む上で、お互いの得手不得手を理解し、ひとつの目標達成を目指すことで信頼関係を築いていく。より良い職場づくり、より良い施設にするためには欠かせないことではないでしょうか。このように、私たちは日々支援をしていく中で、仲間たちから教えてもらうことや助けてもらうことが多くあります。今後も仲間への感謝を忘れずに、お互いに尊重しつつ、素敵なお互いを見つけられるよう支援をしていきたいと思っています。また、来年度はさらに仲間との関係性を深め、居心地の良いグループホームをつくっていきます！

04 | 相談支援事業所 あわい

櫻井 美紗都 小島 美海

日頃より、あわいの運営にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

近年、「老障介護」という言葉にもあるように、障がいのある本人とその家族がともに高齢期を迎えるケースが増えています。長年、親として、またケアの担い手として生活をしてきた家族にとって、「家族で何とかしないと」「頼り先が分からない」といった思いを抱えながら過ごされている現状があります。今年度は、あわいにも老障介護に関するご相談が多く寄せられました。本人の加齢や心身の変化に伴い「今の暮らしや活動の場が本人にとって幸せなのか」と悩まれる声が多く聞かれました。ここで、1つのエピソードをご紹介します。

みんなで支える

Aさん（知的障がいのある本人）とBさん（認知症の疑いがある母）は、2人で長年暮らしてきたアパートを引っ越すことになりました。Aさんから「地域で暮らし続けたい」という希望を聞き、そのためには何が必要かを一緒に考えることになりました。Aさんは「湯船でお風呂に入りたい」「出来ることは自分でやって、難しいところは手伝ってほしい」という思いを話してくれました。そこで、私たちは居宅介護支援事業所と連携し、在宅サービスの利用をご提案しました。

Aさんは、初めは戸惑いながらもサービスの利用を開始しました。自宅でヘルパーさんが見守るなかで入浴ができ、他にも洗濯や掃除も一緒にやるようになり、「地域で暮らす」ことを実現しました。今では、Aさんは通所先の出来事や、時には日頃の不満もヘルパーさんに話せるほどの関係が築けています。また、居宅介護支援事業所とも密に連携を取り、日頃の変化を伝え合っています。ヘルパーさんは本人だけではなく、母の変化にも気づいてくださり、情報を共有してくださいます。そこから、高齢分野の事業所とも連携を取っています。

あわいでは、上記のエピソードにもあるように「本人にとっての幸せな暮らしとは何か」という視点を支援の中心に据え、家族の思いにも寄り添いながら、日々の相談業務を行っております。今後も、老障介護をはじめとする複雑化・多様化する現状に対して、本人や家族が安心して生活できるように支援していきたいと思います。「その人らしい暮らし」を障がい分野だけではなく、高齢分野や医療分野など関係機関とも連携しながら、地域のみんなで考える・支える事業運営に努めて参ります。引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

利用者数 34名／計画作成 46件／モニタリング実施件数 91件 （※R7.4～R8.2）

05 | CCC（地域貢献事業部）

金室 修平 宮本 英恵

CCCは、「地域貢献がしたい！」という私たちの想いと、法人理念を形にするための部署です。地域コーディネーターを配置し、日々現場のニーズを汲み取りながら、地域に出向いています。施設と地域だけではなく、福祉と社会をつなぐハブ役としてはたらくことを視野に入れて活動しています。

○ 私たちはなぜ、地域貢献がしたいのか

私たちが地域貢献をしたい理由は二つあります。一つは、仲間たちの生きがいをづくりのためです。そしてもう一つは、地域の人たちの障がいに対する意識を変えるためです。この二つを達成することにより、「障がいがある仲間たちが、地域の中で・地域のために・地域に必要とされる（愛される）社会をつくる」という理念を実現できます。

○ 「困りごと」からはじまる

さて、多くの地域貢献事業は、地域の「困りごと」から始まります。最初にNPO法人はちみつを立ち上げた四街道市亀崎地域には、「亀崎箒」という伝統工芸品がありました。かつて沢山いた職人さんも、10年前（2016年）の時点で、80代の方が2人になり、亀崎箒は失われかけていました。そこで、私たちが職人さんから作り方を教わり、はちみつで作ることで伝統工芸品を継承しています。

児童発達支援センターくれよんでは、先生たちの手が足りず、園庭の草取りができないということで、お手伝いに行っています。

たかおの杜に移ると、近くには少子高齢化が課題となっている「みそら団地」がありました。自治会の方の高齢化による人手不足で、清掃が回らない公園があるという悩みを聞きま

した。みそら小学校でも1学年1クラスにまで子供が減り、それに伴ってPTAも少なくなり、校庭の草刈りができないという困りごとを抱えていました。そこで私たちは週替わりで、みそらの公園とみそら小学校へ草取りのお手伝いに行くようになりました。

昨年度から開催されている「よつかいどうユニバーサル工業フェスタ」も、企画したきっかけは「地域住民と交流する機会が欲しいが、どのようにしたら良いか分からない」という工業団地の困りごとでした。フェスタを通して、工業団地と地域住民との交流が実現だけでなく、様々な業種の企業同士が繋がり、その年の四街道10大ニュースにも選ばれ、市内でも注目を浴びました。

私たちはこのように、「困りごと」をきっかけに地域貢献事業を行っています、本当に必要とされているかどうかは慎重に見極めていく必要があります。

○ ありがとうの形

私たちの地域貢献事業によって、地域の人から仲間たちに「ありがとう」と言ってもらえる。それは何よりも嬉しいことです。「ありがとう」がもし見えたとしたら、次のような形かもしれません。みそら小学校からは毎年「ありがとうの会」に呼んでいただいています。そこで貰うメダルは今年で3つ目になりました。みそら団地の自治会さんからは、夏祭りに招待していただくなど、交流が始まっています。



四街道図書館さんと一緒に取り組んだ図書館オリジナルグッズづくりは、「みんなの図書館」として千葉コラボ大賞に選ばれました。この賞状も「ありがとう」の形なのかもしれません。

工業フェスタで繋がったご縁もあります。今年度、八フェスのステージが作れずに困っていると、工業団地の安孫子建設さんが頑丈なステージを組みに来てくれました。あっという間に立派なステージが出来上がりました。「工業フェスタをやった良かった」と心から思いました。



CCCがあることで、新しいプロジェクトの相談が入りやすくなりました。現在、四街道市消防本部と、ひみつのおしゃれ工房さんと共に消防服のアップサイクル製品の開発をしています。後述しますが、nof! (ノフ) という新しい事業も始めました。

○ 効果測定

私たちの地域貢献事業の効果を測定するために、アンケート調査を実施しています。昨年のアンケート結果をご報告します。

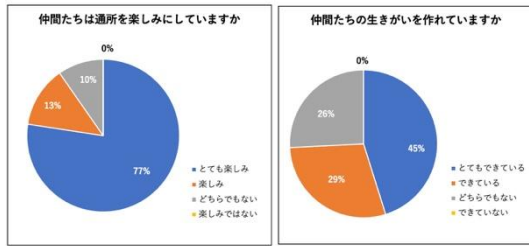
〈地域貢献アンケート〉期間：令和7年3月1日～3月31日

回答者：仲間50名中・有効回答数33名（家族の助けあり）、地域の方10名

- ① 仲間たちの生きがいをつくれてるか、を測るために
「仲間の満足度・ご家族の満足度」「地域の方のありがとう度」を測りました。
- ② 地域の方の障がいに対する意識の変化をさぐる、ために
「私たちと関わる前後で、障がいに対する意識が変わったか」を調べました。

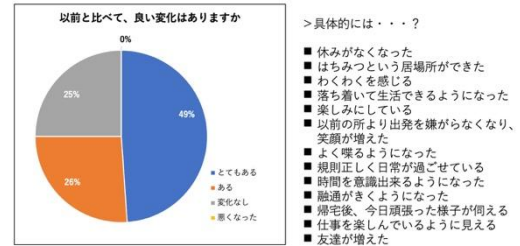
仲間たちの生きがいをつづけているか

① 仲間の満足度



(表 1：①仲間の満足度)

① 仲間(ご家族)の満足度

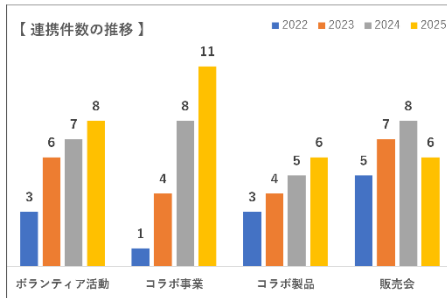


(表 2：仲間（ご家族）の満足度)

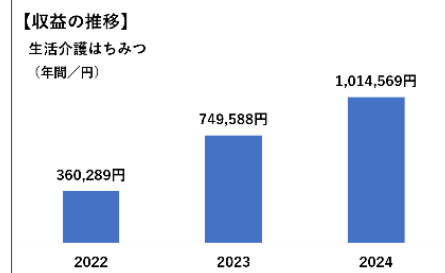
「以前と比べて、良い変化はありますか?」という質問には、ある・とてもあると答えた方が7割以上いらっしゃいました。こちらは仲間というよりもご家族の満足度もわかる質問でした。具体的には、笑顔が増えた・友達が増えたなどの声が聞かれました。(表 2)

仲間たちの生きがいをつづけているか

② 地域の方のありがとう度



(表 3：②地域の方のありがとう度)



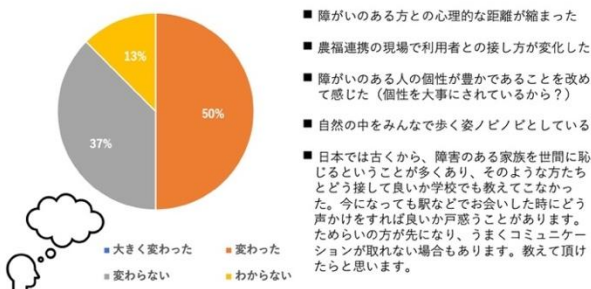
(表 4：収益の推移/生活介護はちみつ)

仲間たちの生きがいの重要な要素である、地域の方の「ありがとう度」は、数値化が難しかったので、連携件数の推移を見ることにしました。2022年のボランティアは3件でした。2024年には7件、2025年は8件に増えています。コラボ事業も11件になり、コラボ製品も販売会の出店回数も年々増えています。ありがとう度は上がっていると考えます。(※P地域貢献事業実施一覧参照)

連携事業の増加に伴い、工賃も年々増えています。仲間の人数は増えながら、お願いされる仕事も増え、全体の収入が増加し、2024年度は生活介護はちみつの生産活動の収益が100万円を超えました。工賃もまた、やりがい・生きがいに繋がる重要な要素の一つです。

地域の人の障がいに対する意識の変化

Q：私たちと交流する前と現在で、障がいに対する意識に変化はありましたか？



地域の人の障がいに対する意識の変化を調査するために、地域の方へのアンケートを実施しました。基本的には私たちと交流のある地域の方へアンケートをお願いしたので、優しい回答が多かったです。「私たちと交流する前と現在で、障がいに対する意識に変化はありましたか?」という質問には「大きく変わった」という方はいらっしゃいませんでした。「変わった」という方が半数、「変わらない、わからない」と答えた方が半数いらっしゃいました。

(表5：地域の人の障がいに対する意識の変化)

特に一番下の回答は、地域活動に積極的な方のものです。もっと障がいについて知ってほしい、私たちにできることがあるのではないかと思います。

地域の人の意識の変化を数値化するのは難しいです。ふるさと祭りのチャリティ Tシャツの売り上げは年々増えており、2022 年初回 890 枚販売でしたが、2024 年は 1350 枚、2025 年は 1079 枚売れました。まちなかで Tシャツを着ている人と会うこともあり、嬉しくなります。これは地域の人の意識変化とも言えるのではないのでしょうか。

効果測定は、毎年一回行い、地域貢献事業の見直しや、新たな取り組みを企画し PDCA サイクルを回していきたいと思います。

○ nof!ノフ (CSA×農福連携)

nof!ノフは、農福連携で一緒にしている「畑楽農園」と、四街道市産業振興課さんと共に取り組んでいる事業です。今年度は、千代田保育所で毎月2回の野菜販売を開始しました。その販売用に、四街道市福祉作業所で野菜の洗浄や袋詰めの仕事をお願いしています。2月20日には、四街道市文化センターにて「食と農が支え合うあたらしいかたち：CSAでつくる地域循環」という講演会を主催し、CCCとして登壇させていただきました。本プロジェクトは、今年度を準備期間として、来年度はさらに活発に活動していきます。

nof!とは・・・

『Next (新しい) / Open (ひらかれた) / Field (社会の可能性) に“!” (小さな驚き) を足す、というコンセプトをもとに始まったプロジェクトです。「食」と「農」を「福祉」でつなぎ、地域の中で支え合いが回る仕組みを育てていきます。前払い・定期受け取りで農家を支える CSA (地域支援型農業) に、福祉の力 (農福連携) を掛け合わせ、畑を中心に人がゆるやかに繋る“新しい農のかたち”をつくります。』

○ おわりに

私たちの地域貢献事業の主役は、あくまでも障がいのある仲間たちです。障がいのある仲間たちが地域で活躍することで、仲間たちが豊かになり、地域社会も豊かになります。私たちの地域貢献事業は、差別や偏見のないまちづくりにも貢献できると考えます。

今年度は8月に全国障害者問題研究会・広島大会にて「私たちは、なぜ地域貢献がしたいのか」というレポートを発表してきました。全国の福祉施設でも地域貢献事業が広がり、障がいのある仲間たちの活躍の場が増えることを願っています。

○ CCC (地域貢献事業部) 地域貢献活動 実施一覧 2024—2025 年度

・ボランティア活動

ヒト	コト	モノ	実施日
長崎農場	農福連携	畑	毎月第4月曜日
四街道市児童デイサービスセンターくれよん	清掃ボランティア	園庭・保育室	毎週月曜日
みそら自治会	清掃ボランティア	公園	毎月第1,3,5月曜日
みそら小学校	清掃ボランティア	校庭	毎月第2,4月曜
高麗神社	清掃ボランティア	境内	毎月第2,4月曜
野外保育さとのたね	チラシ仕分け	チラシ	2025 年 5 月
四街道工業団地協同組合	チラシ仕分け	チラシ	2025 年 9 月
四街道市クリーンセンター	クリーン大作戦	ゴミ	2025 年 11 月

・地域連携事業（※）

コト	ヒト	モノ	実施日
農福連携	畑楽農園	農作物	隔週火・木
四街道ふるさとまつり チャリティTシャツ	四街道市みんなで課	Tシャツ	2022 年～
よつかいどうユニバーサル 工業フェスタ	四街道工業団地協同組合 よつまち商店会ブラボー 四街道市産業振興課	地域の賑わい	2023 年 12 月～ 2025 年 11 月
ハフェス	地域の福祉団体、 個人商店、農家さん	地域の賑わい	7 月～11 月
サマーコレクション 2024 （合同作品展）	社会福祉法人九十九会 まあるい広場 NPO 法人みのり福祉会	888 アート	2024 年 7/26-8/31
ファイバーリサイクル （古着回収、パキスタンの学校支援）	ファイバーリサイクル 四街道	古着	2024 年～
亀崎箒づくり（伝統継承）	千葉敬愛高校 リアビズ同好会	亀崎箒	2024 年 7 月～10 月
	Y・Y・KNOWSON	孟宗竹	2025 年 9 月～12 月
地域買い物支援事業	地域包括支援センター ウェルシア	飲食料品	毎週火曜日 15:45～
nof!（CSA×農福連携）	四街道市産業振興課 畑楽農園 千代田保育所	新鮮な野菜 畑	2025 年 4 月～
Yotsukaido candle night 2025	四街道市政策推進課	バンブーランタン	2025 年 12/6
消防服アップサイクルプロジェクト	四街道市消防本部 ひみつのおしゃれ工房 四街道市福祉作業所 久永製作所	防災頭巾 小物入れ	2025 年 9 月～

・コラボ製品

モノ	ヒト	コト	実施日
四街道産純粋蜂蜜 「よつかいどうはちみつ」	・よつまち商店会ブラボー ・養蜂家青木さん	ブラボーセレクション 認定	随時
なかまカレンダー2025	社会福祉法人いぶき福祉会 （岐阜県）	製品共同開発 仲間同士の交流	8 月～12 月 Zoom2/4
本棚	四街道市立図書館	「みんなの図書館」	2024 年 7/23 納品
トートバック			2024 年 3 月納品
誕生日シール			2025 年 7 月納品
ひみつのおしゃれグッズ	ひみつのおしゃれ工房	製品共同開発	2024 年～

・販売会

5/31(土) 大きなテーブル@四街道市文化センター
8/23（土）24（日）四街道ふるさと祭り@四街道中央公園
10/19（日）社協まつり@総合福祉センター駐車場
10/25（土）よつかいどうユニバーサル工業フェスタ 2025@四街道工業団地協同組合
11/15（土）ちばユニバーサル農業フェスタ in 四街道市@四街道市文化センター

06 | 職員研修

本田 郷士

2025年の職員研修は、「よつかいどう福祉会の一員として、全体でコミュニケーションをとり、みんなで（組織知）、支援に必要な力を磨き（実践と振り返り）、変化し続けよう（新しい学びを怠らず、環境の変化に適応する）」という年度方針の基で運営してまいりました。

職員一人一人が積み重ねた経験は、これからのよつかいどう福祉会にとって大切なものです。これを個々人の暗黙知に留めることなく組織全体で共有し合い、組織の知として蓄積していくための土台作りを行いました。これまでの成功体験に執着せず、常に最良の形を追求し、変化していくことを目的としています。

研修テーマは大きく「①支援スキル」、「②業務スキル」、「③組織活性化」の三つに分類されます。「支援スキル」と「組織活性化」に注力する形をとっています。

【各カテゴリの実施回数】①支援スキル：8回 ②業務スキル：2回 ③組織活性化：4回

2025年度 内部で実施した「職員研修」のプログラム一覧

月	テーマ	分類
4月	目標設定	②業務スキル
5月	送迎	①支援スキル
6月	ファシリテーション	③組織活性化
7月	感染症予防について（BCP）	①支援スキル
8月	災害時の備えについて（BCP）	①支援スキル
9月	1. 法人理念 2. 虐待防止	③組織活性化 ①支援スキル
10月	認知症についての理解	①支援スキル
11月	傾聴・対話	③組織活性化
12月	文章の構築	②業務スキル
1月	腰痛の予防・対策	①支援スキル
2月	精神障がいについての理解	①支援スキル
3月	1. 法人理念 2. 虐待防止	③組織活性化 ①支援スキル

上記のほか、若手・中堅社員向けに「スキルアップ研修」を実施しました。

スキルアップ研修では、社会人基礎力の向上につながる内容を7月から3月末までに8回実施しました。若手・中堅社員から選出された計5名を対象に、座学やディスカッションを通じて学びました。

スキルアップ研修一覧

月	テーマ	月	テーマ
7月	ロジカルシンキング①	10月	ファシリテーション①

8月	プロジェクトマネジメント①	12月	アサーション
9月	ティーチング①	1月	ロジカルシンキング②
10月	ファシリテーション①	2月	プロジェクトマネジメント②
12月	アサーション	3月	ティーチング②

外部研修

日付	研修名称	主催者	講師	人数
4/9	千葉県知的障害者福祉協会 相談支援部会 総会「カスタマーハラスメントについて」	千葉県知的障害者福祉協会	佐久間水月氏	1
6/30 ～7/1	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	フレンズ株式会社		1
7/3	福祉施設で働く職員のためのセルフリーダーシップ 7つの習慣	全国社会福祉法人経営者協議会	山田路子氏	1
7/14 ～7/15	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	フレンズ株式会社		1
7/19	成年後見制度改革の中間試案を読む	特定非営利活動法人 PAC ガーディアンズ	山野目章夫氏	1
8/8 ～8/10	全国障害者問題研究会全国大会	全国障害者問題研究会		3
8/12	精神障害者の居住支援とグループホームの役割	印旛圏域における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築会議	荒井隆一氏	2
8/27	令和7年度 市町村職員実践研修『避難所運営の基礎知識』	千葉県危機管理政策課	株式会社ネクセライズ	2
8/20～ 10/17	令和7年度第1回千葉県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修	千葉県健康福祉部障害福祉事業課		2
9/5	親亡き後を今から考える	松戸市手をつなぐ親の会		2
9/18	令和7年第1回障害福祉サービス等事業所研修会	四街道市基幹相談支援センター基幹相談支援センター	伊藤佳世子氏	3
11/16	高次脳機能障害 地域支援者向け連続講座	千葉リハビリテーションセンター		2
11/22	障害者家族の老いる権利と社会的支援のあり方	全国障害者問題研究会千葉支部	田中智子氏	28
11/30	「教育と保育のための発達診断セミナー」	全国障害者問題研究会		1
12/22	リスクマネジャー養成講座	全国社会福祉法人経営者協議会	複数名	1
1/14 ～1/15	行動援護従業者養成研修講座	株式会社みらい福祉会		1
1/16	令和7年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修	千葉県庁障害福祉事業課虐待防止対策・法人指導班	染谷英樹氏 他1名	1
1/20	発達障害や自閉症・強度行動障害のある方への支援方法について	四街道市基幹相談支援センター	臼井潤記氏	3

1/20 ～1/21	令和 7 年度 監事専門講座	社会福祉法人経営者協議会		1
1/28 ～2/19	令和 7 年度障害者虐待防止・権利擁護専門研修「施設従事者研修（初任者）研修」	千葉県健康福祉部障害福祉事業課		4
2/1	つくる つたえる つながる サミット Vol.2	千葉県、南関東・甲信障害者アートサポートセンター	千葉県障害者芸術文化活動支援センター うみのもり他	1 名
2/8	令和 7 年度 医療的ケア児等を支援する支援者研修会	千葉県医療的ケア児等支援センター		2
2/14	社会福祉法人八千代翼友福祉会 第 3 回全体研修	社会福祉法人八千代翼友福祉会	橋本創一氏	3
2/18 ～2/19	行動援護従業者養成研修講座	株式会社みらい福祉会		1
2/23	出会いはタカラモノ～子どもから教えられたことばかり～	全国障害者問題研究会 千葉支部	佐藤比呂二氏	25

① 支援スキル

☆基本的な知識のアップデート

社会の変化や医療技術の進歩によって、支援に必要な基本的な知識も日々変化します。変化に適応していくために、当法人では基本的な知識をアップデートする研修を実施しました。虐待防止のプログラムにおいては「誰もが加害者になり得るという自覚を持つ」ことや、「相手の行動を自分の解釈で決めつけず、背景の情報や相手の気持ちを考えることで、冷静かつ適切な対応を選択できる」などの基本姿勢を学びました。また、認知症についても、実例を通じて認知症の本人や家族の状況や支援者の取り組みを知ることで、支援の際に意識すべきポイントを学びました。

☆自分の身体をメンテナンス

職員は仲間を抱えたり、支えたりする際に足腰を痛めることがあります。そこで、専門の先生をお招きして腰痛予防の研修を実施し、身体の動かし方や日頃のケアの仕方を学びました。関節の役割を「Stable」と「Mobile」の二つに分類し、それぞれの役割に応じた動かし方の注意点を学びました。また、実践編として、ストレッチやトレーニング、重いものを持ち上げる際の姿勢などを学びました。受講当日から「すぐ実践できる。」「これなら続けられそう」という声が飛び交っていました。

☆昨年の学びと実践を振り返る

昨年は「安全対策」として、送迎／感染症対策／災害対策について学びました。今年は昨年の学びを定着させることを目的として、振り返りを含めた研修を実施しました。送迎の研修では、交通事故によって発生する損害を改めて確認するとともに、運転時に注意すべきポイントを発表し合い、相互に学びを深め、安全運転意識を共有し合いました。また自然災害の対策研修では、南海トラフ地震を想定して「仲間の安全確保」「職員の安全確保」「サービスの継続」の 3 つのポイントについて学びました。準備すべきことを確認し合い、施設の被害状況確認フローの作成や避難所設営マニュアルの作成等、10 月に実施した福祉避難所設営訓練にも反映させました。

① 業務スキル

☆目標設定／文章の書き方を学習し、業務の質向上につなげる

支援に必要な力を磨き続けるには、自分が取り組むべき目標を定め、実行による経験から学び、学びを次の成長につなげることが重要です。そこで、今年度の冒頭４月には目標設定について学びました。目標の意義を再確認するとともに、法人理念・各自の中長期目標を明らかにし、「SMART」な要素が明確な目標設定になるよう取り組みました。また、昨年引き続き、文の書き方をテーマとした研修を実施しました。「事業報告書作成を通じて伝わりやすい文章を書く練習になる。」という意見だけでなく、「仲間をよく観ることにもつながる。」などの新たな気づきにもつながりました。

② 組織活性化

個々人が持つ暗黙知を組織全体で共有し、組織知として浸透させて支援の質を高めるため、組織活性化に関する研修を４回行いました。

☆法人理念について理解を深める

よつかいどう福祉会の法人理念「ミッション・ビジョン・バリュー」を体現する支援の好事例を共有し合うとともに、各人が考える課題点を共有し合いました。そして、挙げられた課題の原因分析を行うプロセスを通じて、法人理念の理解を深めました。本研修の話し合いを受けて対策実施につながりました。例えば、「職員間の情報格差」の課題が挙げられたため、翌週から毎日の夕礼の議事録を全職員に共有しました。誰もが法人理念体現の主体になり、改善提案することの重要性を再確認しました。

☆チーム力を高めるコミュニケーション

よつかいどう福祉会の法人理念の理解を深めるとともに、組織全体のコミュニケーション活性化に取り組みました。ファシリテーション研修では、対話に必要なプロセスや各プロセスの要点を学びました。昨年に引き続き、「人はそれぞれ異なる解釈の仕方をする」ことを前提に、話し合いで意見を引き出し、合意形成し、結論を導く方法を学びました。傾聴・話し合いの研修では、傾聴に求められる要素「受容、共感的理解、自己一致」等の基本的な知識を学びました。また、相手が本音を話しやすい環境作りや質問の方法について学びました。聴いているつもりになりやすいので、傾聴を正しく理解し実践していきたいと思います。

07 | 利用状況

(令和8年3月1日現在)

出席率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
93.9%	92.8%	90.0%	86.1%	90.0%	90.9%	93.2%	93.1%	89.0%	92.6%	88.1%		%
22	23	22	23	22	22	23	22	23	21	21	23	267日

利用者状況

年齢別構成

年齢	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50-59	60歳以上
男性	2	16	4	1	2	1
女性	1	5	2	2	4	1
合計	3	21	6	3	6	2

療育手帳別構成

	㊤	B2	B1	A2	A1	㊤1	㊤2
男性	1	0	0	0	10	4	10
女性	1	1	2	0	6	1	4
合計	2	1	2	0	16	5	14

身体障害者手帳1種 1級2名・2級1名・3級1名・6級1名

精神保健福祉手帳1級1名 2級1名 手帳なし1名

障害支援区分

区分	6	5	4	3
男性	21名	5名	0名	0名
女性	7名	7名	1名	0名
合計	28名	12名	1名	0名

居住地

四街道市在住 30名 千葉市在住 7名 佐倉市在住 3名 八千代市在住 1名

入所者 3名 退所者 2名

08 | 2025 年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会 法人事業計画

1. 法人理念

MISSION：障がいがある仲間が、地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）社会をつくります

VISION： 私たちが、はたらく（側楽）を実現することで、仲間や地域も豊かになると考えます

VALUE：・障がいがある仲間たちが、地域で普通の人としての生活を送ることができるよう支援します

- ・はたらく（側楽）を基本として、支援します
- ・仲間の安全と安心できる生活を守ります
- ・仲間のことを自分ごととして考えます
- ・仲間の得意なところに目を向けて、苦手なところに手を当てる支援をします
- ・仲間の集団を保障し、ともに発達・発展していきます
- ・仲間たちのやりがいや生きがいを創ります

2. 法人の事務処理

法人の事務処理は、理事長職務者及び法人事務員がおこなう。

3. 資金計画

独立行政法人福祉医療機構及び京葉銀行からの融資を受け、別紙支払計画の通り、実施する。

(千円)

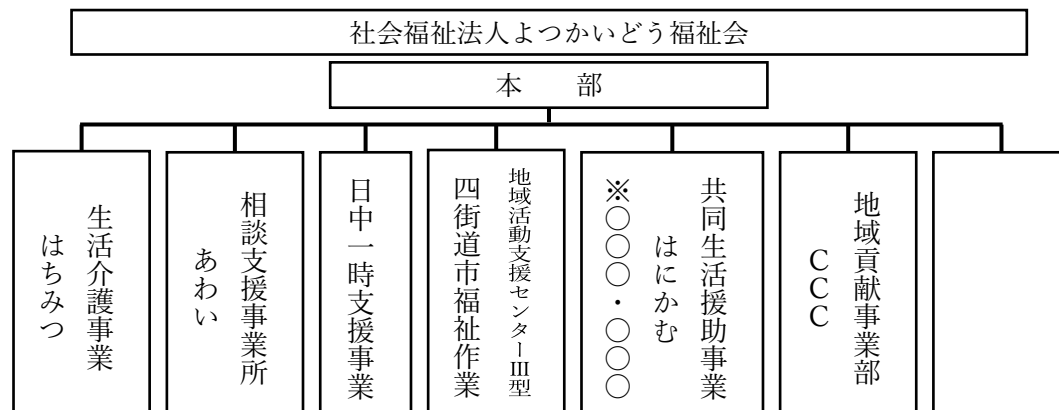
借入先	当初借入額	償還済額	当期償還額	借入残額	備考
独立行政法人福祉医療機構	151,500 千円	1,578 千円	5,308 千円	146,790 千円	施設整備（元本の返済は 2025 年 6 月から）
計	151,500 千円	1,578 千円	5,308 千円	146,790 千円	

4. 役員会の開催等

開催時期	主な議題
2025 年 6 月	・理事会・定時評議員会開催（理事会開催・評議員会開催）
2025 年 7 月	・入札について、契約について（理事会開催）
2025 年 10 月	・補正予算案及び定款変更について（臨時評議員会開催）
2026 年 2 月	・事業計画案、予算案、（理事会開催・定時評議員会開催）
2026 年 5 月	・定時評議員会開催

上記のほか、定款に定められた議決事項及び重要事項を審議するため、適宜役員会を開催する。

5. 法人の組織図



※本年度中に建築着工、来年度開所予定

2025 年度 生活介護はちみつ 事業計画

I 趣旨

生活介護はちみつは、8 年目にはいりました。仲間たちは、たかおの杜でのんびり楽しく過ごしております。今年度は、昨年度よりも 1 名少ない定員 40 名中、38 名でのスタートとなります。今年度も、地域に根差した活動を通して、仲間一人ひとりにスポットライトを当てて、手ごたえを感じてもらえるよう支援していきたいと思います。仲間たちが毎日楽しく過ごせるよう、主体的な活動や意思決定支援を大切に、法人内事業、他団体との連携を図っていききたいと考えています。

MISSION：障がいがある仲間が、地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）社会をつくれます

VISION： 私たちが、はたらく（側業）を実現することで、仲間や地域も豊かになると考えます

VALUE：・障がいがある仲間たちが、地域で普通の人としての生活を送ることができるよう支援します
・はたらく（側業）を基本として、支援します
・仲間の安全と安心できる生活を守ります
・仲間のことを自分ごととして考えます
・仲間の得意なところに目を向けて、苦手なところに手を当てる支援をします
・仲間の集団を保障し、ともに発達・発展していきます
・仲間たちのやりがいや生きがいを創ります

II 事業計画

1、定員 40 名以下

2、職員	管理者	1 名（兼務可）
	サービス管理責任者	1 名以上（兼務可）
	生活支援員	1 名以上（常勤 11 名、非常勤 17 名在職）
	看護職員	1 名以上（非常勤 2 名在職）
	医師	必要数（嘱託医）

3、支援態勢

安全対策を前提にし、利用者が安心して楽しい生活が送れるよう、創意工夫し生活の中で充実感をもてるように、作業での手ごたえや仲間との関わり、地域貢献活動を大切に、生活の場を構築することを目指す。

III 重点目標

1、支援や取り組みの充実

支援方法を基本におき、利用者が主体的な活動を通して、手ごたえを感じられるよう支援し取り組む。さらに、集団の発達の視点をもって支援し取り組む。

【ホーム活動】

- 春のいろ：チーム「春のいろ」輪ハハ大作戦第 2 幕。①個々に合わせた無理のない運動をする。②スター誕生、一人ひとりが主人公。
- 虹のもと：個を知って得意なことから自主性を引き出し、自信に繋がるように支援する。
- 花あかり：チームワークの良さを生かし、仲間同士の関係を深めていき、仲間の意見を取り入れ、居心地の良いホームづくりをおこなう。
- 黒のピロード：和やかな雰囲気の中で、仲間同士の関わりを見守る。仲間の得意なところ、好きなことをいかした取り組みを通して、やりがい・生きがいを感じてもらえるよう支援する。

【生産活動】

- タートルズ（木工・箒）：
仲間の得意を活かした製品づくりをし、手ごたえを感じられるよう援する
- クレインズ（織物）：販売目的を明確にして、全員参加型の支援を行っていく。

- ゴーツ（清掃）：地域に根差した生産活動を行う。天職を見つけよう。

2、家族支援

利用者支援に留まらず、家族に対しても寄り添った支援を行う。また、利用者支援のための連携や、情報交換ができる場をつくり、支え合える体制を構築する。

3、職員研修

職員の質の向上を目的に、毎月一回以上の研修を行う。また、外部の研修も定期的に参加し、自己啓発に努める。

4、他事業、他法人との連携

他事業所、他団体と合同のイベントの企画やイベントの参加など、外部との繋がりを持ち、地域に対して福祉事業等を啓蒙する活動を行う。

5、ボランティア活動

地域の中で、利用者が主になってボランティア活動を行い、地域のために活躍し、手ごたえを感じられるよう支援する。同時に、法人職員も地域に貢献するように努める。

2025 年度 共同生活援助事業 はにかむ 事業計画

I 趣旨

障がいがある仲間たちの暮らしの場を整備するために、今年度から GH はにかむを開所致します。当法人施設に通う仲間の中には、ご本人の高齢化やご家族の高齢化が顕著にみられてきました。そのため、暮らしの場の整備は、急務であり大変必要な事業のひとつであると考えております。はにかむでは 6 名定員の部屋と、短期入所 1 床を併設しております。短期入所では、緊急時の受け入れや、体験なども目的として設置しております。地域生活支援拠点のひとつとして、地域に根ざした施設となりながらも、そこで暮らす仲間たちが安心して過ごせるよう居場所づくりを意識して支援していきたいと考えております。

MISSION：障がいがある仲間が、地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）社会をつくります

VISION： 私たちが、はたらく（側業）を実現することで、仲間や地域も豊かになると考えます

VALUE：

- ・障がいがある仲間たちが、地域で普通の人としての生活を送ることができるよう支援します
- ・はたらく（側業）を基本として、支援します
- ・仲間の安全と安心できる生活を守ります
- ・仲間のことを自分ごととして考えます
- ・仲間の得意なところに目を向けて、苦手なところに手を当てる支援をします
- ・仲間の集団を保障し、ともに発達・発展していきます
- ・仲間たちのやりがいや生きがいを創ります

II 事業計画

- | | | | |
|------|-----------|---------------------------------|------|
| 1、定員 | 6 名 | （短期入所 | 1 床） |
| 2、職員 | 管理者 | 1 名（兼務可） | |
| | サービス管理責任者 | 1 名以上（兼務可） | |
| | 生活支援員 | 1 名以上（常勤 1 名以上（兼務可）、非常勤（1 名以上）） | |
| | 世話人 | 1 名以上（非常勤（1 名以上）） | |
| | 医師 | 必要数（嘱託医） | |

3、支援態勢

安全対策を前提にし、利用者が安心して楽しい生活が送れるよう、創意工夫し生活の中で充実感をもてるように、仲間との共同生活の中での手ごたえを感じ、暮らしの場を構築することを目指す。

III 重点目標

1、支援や取り組みの充実

仲間たちが、はにかむで安全と安心できる暮らしが出来るよう支援する。その暮らしの中で、自分の得意なところをいかして、やりがいを感じてもらえるよう支援する。

2、家族支援

利用者支援に留まらず、家族に対しても寄り添った支援を行う。また、利用者支援のための連携や、情報交換ができる場をつくり、支え合える体制を構築する。

3、職員研修

職員の質の向上を目的に、毎月一回以上の研修を行う。また、外部の研修も定期的に参加し、自己啓発に努める。

4、他事業、他法人との連携

他事業所、他団体と合同のイベントの企画やイベントの参加など、外部との繋がりを持ち、地域に対して福祉事業等を啓蒙する活動を行う。地域連携推進会議を年2回以上行い、地域との連携及び理解を図り開かれたグループホームを目指す。

5、ボランティア活動

地域の中で、利用者が主になってボランティア活動を行い、地域のために活躍し、手ごたえを感じられるよう支援する。また同時に、法人職員も地域に貢献するように努める。

2025 年度 相談支援事業所 あわい 事業計画

I 趣旨

四街道市やその近隣の市（千葉市、佐倉市）で暮らす障がい児・者の生活全般における相談や必要な福祉サービスの利用に関する情報を提供いたします。また、サービス等利用計画の作成、モニタリングを行い、ご本人やご家族のニーズに合った生活を送ることができるよう、ご本人やご家族に向き合いながら、迅速且つ丁寧に相談支援を行います。

II 事業の内容

利用される方、一人ひとりに向き合い、障害福祉サービスの利用に向けたサービス利用計画作成及び手続の支援を行います。社会資源の把握に努め、ご本人やご家族が楽しく、豊かに生活できるよう支援致します。

III 従業員の人数 管理者 1 名（常勤 1 名） 相談支援専門員 2 名（非常勤 2 名）

IV 研修の企画運営

虐待防止等や意思決定支援等の障がい者における権利擁護を中心に法人内で研修を企画、または外部研修に参加致します。

2025 年度 日中一時支援事業 事業計画

I 趣旨

在宅の障害児者の日中における活動の場を確保し、障害児者等の家族の就労支援及び障害児者を日常的に介護している家族の一時的な休息を供与し、障害児者及びその家族の地域における日常生活及び社会生活を支援する。

II 事業の内容

日中活動に対しての支援及び余暇活動の支援を行う

III 利用定員

1 日あたり 3 名以内

IV 営業日及び営業時間

月・火・水・木・金・土曜日 8 時 30 分～17 時 15 分
時間外は要相談※（法人の定める日、及び国民の祝祭日、日曜日、12/29 から 1/3 は除く）

V 対象地域

四街道市・千葉市・佐倉市

- ・アルミ缶回収：回収後プルトップ部分の分離作業
- ・箒づくり：亀崎地区の伝統工芸品亀崎箒の制作及び販売 など

【健康管理】

- ・毎月月初めに体重測定の実施
- ・内科検診の実施
- ・医療的ケア及び必要な方への通院同行等
- ・毎日の検温

7、作業工賃の支払い

毎月 28 日（28 日が土日祝日にあたる場合は、その前営業日）に利用者指定の口座へ振り込む。また、自主生産活動の成果により得られた収入については、12 月及び 3 月の作用工賃とともに賞与として利用者へ分配する。

2025 年度 地域貢献事業部 CCC 事業計画

I 趣旨

地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）社会をつくる、と理念に掲げている。本事業部は、地域とのつながりを創っていくと同時に、障がいがある仲間や、当法人が主体となった地域貢献活動や事業を、企画並びに運営することを目的としている。これまで以上に地域貢献を行っていくと共に、地域に根ざした活動を展開していく。

MISSION：障がいがある仲間が、地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）社会をつくります

VISION： 私たちが、はたらく（側業）を実現することで、仲間や地域も豊かになると考えます

VALUE：

- ・障がいがある仲間たちが、地域で普通の人としての生活を送ることができるよう支援します
- ・はたらく（側業）を基本として、支援します
- ・仲間の安全と安心できる生活を守ります
- ・仲間のことを自分ごととして考えます
- ・仲間の得意なところに目を向けて、苦手なところに手を当てる支援をします
- ・仲間の集団を保障し、ともに発達・発展していきます
- ・仲間たちのやりがいや生きがいを創ります

II 事業計画

- | | | |
|--------|------------|----------|
| 1、職員体制 | 所長 | 1 名（兼務） |
| | 地域コーディネーター | 1 名（兼務可） |

III 重点目標

1、支援や取り組みの充実

地域と利用者、法人を結ぶ懸け橋となり、地域貢献や地域に根ざした活動をおこなっていく。法人の施設に通う利用者が地域と繋がりを持ち、地域に貢献できる活動を支援する。

2、家族支援

利用者支援に留まらず、家族に対しても寄り添った支援を行う。利用者と、利用者家族も丸ごと捉えた視点で、地域貢献活動や地域に根ざした事業を行う。そのための連携や、情報交換ができる場をつくり、支え合える体制を構築する。

3、職員研修

職員の質の向上を目的に、毎年一回以上の研修を法人施設職員に行う。

4、他事業、他法人との連携

他事業所、他団体と合同のイベントの企画やイベントの参加など、外部との繋がりを持ち、地域に対して福祉事業等を啓発する活動を行う。

5、ボランティア活動

地域の中で、障がいがある方々が主になり様々な活動を行い、地域のために活躍し、手ごたえを感じられるよう支援する。また同時に、法人職員も地域に貢献するように努める。

6、活動内容

- ・法人が行う啓発活動の企画、運営
- ・法人機関誌などの発行及び年度事業報告書
- ・利用者がおこなうボランティア活動及び、生産活動の製品並びに販路等の構築

09 | 2025 年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会 法人事業報告

1. 法人理念

MISSION：障がいがある仲間が、地域の中で、地域のために、地域に必要とされる
(愛される) 社会をつくります

VISION： 私たちが、はたらく(側業)を実現することで、仲間や地域も豊かになると考えます

VALUE：・障がいがある仲間たちが、地域で普通の人としての生活を送ることができるよう支援します
・はたらく(側業)を基本として、支援します
・仲間の安全と安心できる生活を守ります
・仲間のことを自分ごととして考えます
・仲間の得意なところに目を向けて、苦手なところに手を当てる支援をします
・仲間の集団を保障し、ともに発達・発展していきます
・仲間たちのやりがいや生きがいを創ります

2. 法人の事務処理

法人の事務処理は、理事長職務者及び法人事務員がおこなう。

3. 資金計画

独立行政法人福祉医療機構及び京葉銀行からの融資を受け、別紙支払計画の通り、実施する。

(千円)					
借入先	当初借入額	償還済額	当期償還額	借入残額	備考
独立行政法人福祉医療機構	151,500 千円	6,887 千円	5,308 千円	146,790 千円	

4. 役員会の開催等

令和 6 年度 理事会開催状況

日付	議案	出席状況
令和 7 年 6 月 1 日 9 時 30 分～	1 号議案 理事・監事の改選について	6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席
	2 号議案 評議員選任解任委員会による評議員の改選について	
	3 号議案 2024 年度(令和 6 年度)度事業報告及び事業計画について	
	4 号議案 2024 年度(令和 6 年度)計算書類について	
	5 号議案 GHいつも・いつでも棟の建設について	
	6 号議案 定款の変更について	
令和 7 年 6 月 1 日 12 時 30 分～	1 号議案 社会福祉法人よつかいどう福祉会 はにかむ増築工事共同生活援助事業いつでも 新築工事計画、担保提供及び連帯保証人の件	6 名中 4 名出席 監事 2 名中 1 名出席
令和 7 年 6 月 10 日	1 号議案 社会福祉法人よつかいどう福祉会Ⅱ期新築工事入札における広告について	6 名中 4 名出席 監事 2 名中 1 名出席
令和 7 年 7 月 1 日	1 号議案 社会福祉法人よつかいどう福祉会Ⅱ期新築工事入札における入札業者選定について	6 名中 4 名出席 監事 2 名中 1 名出席

令和 7 年 7 月 29 日	1 号議案	社会福祉法人よつかいどう福祉 共同生活援助事業はにかむ 新築工事入札及び契約について	6 名中 4 名出席 監事 2 名中 1 名出席
令和 7 年 12 月 8 日	1 号議案	社会福祉法人よつかいどう福祉会 共同生活援助事業はにかむ 2 の新築工事工事請負契約について	6 名中 5 名出席 監事 2 名中 1 名出席
令和 8 年 2 月 22 日	1 号議案 2 号議案 3 号議案 4 号議案 5 号議案	共同生活援助事業はにかむ 2 について 中長期計画案について 令和 8 年度(2026 年度)予算案について 定時評議員会の開催日時について 令和 7 年度(2025 年度)補正予算案について	6 名中 5 名出席 監事 2 名中 1 名出席 (1 名書面出席、同意書有)

令和 6 年度 評議員会開催状況

日付	議案	出席状況
令和 7 年 6 月 1 日	1 号議案 理事・監事の改選について 2 号議案 評議員選任解任委員会による評議員の改選について 3 号議案 2024 年度(令和 6 年度)度事業報告及び事業計画について 4 号議案 2024 年度(令和 6 年度)計算書類について 5 号議案 GHいつも・いつでも棟の建設について 6 号議案 定款の変更について	評議員 7 名中 6 名出席 (1 名書面表決有)
令和 8 年 2 月 22 日	1 号議案 共同生活援助事業はにかむ 2 について 2 号議案 中長期計画案について 3 号議案 令和 8 年度(2026 年度)予算案について 4 号議案 定時評議員会の開催日時について 5 号議案 令和 7 年度(2025 年度)補正予算案について	理事 6 名中 5 名出席 監事 2 名中 1 名出席 (1 名書面出席、同意書有) 評議員 7 名中 6 名出席 (1 名書面出席、同意書有)

令和 6 年度 評議員選任解任委員会

令和 7 年 5 月 26 日	評議員の解任及び選任について	委員 1 名 監事 1 名 事務員 1 名
-----------------	----------------	--------------------------

5. 各事業の取り組み

(1) 組織運営・経営

① 法人の節目と全体状況

2025 年 9 月 1 日をもって、社会福祉法人化から 4 年が経過し、5 年目に入る。前身である特定非営利活動法人はちみつ創設から 10 年が経過し、生活介護はちみつも来年度で開所 10 年目を迎えるなど、法人として大きな節目の時期にあたる。

現在、当法人は以下の事業を運営している。

1. 生活介護はちみつ
2. 相談支援事業所「あわい」
3. 四街道市福祉作業所（指定管理）
4. 共同生活援助事業 はにかむ

さらに、来年度より受託予定の基幹相談支援センター運営に向けた準備を進めた。

② 各事業の現状と課題

○ 生活介護はちみつ

定員 40 名で年度当初を開始したが、年度途中の退所等により、現在は 37 名の利用に留まっている。

- ・ 定員充足の維持が課題
- ・ 利用者の高齢化・支援の重度化への対応
- ・ 開所 10 年を見据えた支援の質のさらなる向上、安定経営と質的向上の両立が求められる。

○ 相談支援事業所「あわい」（指定特定相談支援・障害児相談支援）

「あわい」は、計画相談支援および障害児相談支援を担う事業所として開設され、本年度で 4 年が経過し、5 年目に入る。生活介護「はちみつ」と同一建物内に併設されており、日常的な情報共有と一体的な支援体制が整っている。

・ 相談支援専門員：2 名配置 ・ 利用者数：35 名（令和 7 年 9 月時点）

・ サービス等利用計画作成：約 30 件 ・ モニタリング実施：約 50 件

成人・障がい児双方の相談に対応し、日常生活相談から福祉サービス利用調整まで幅広く支援している。また、地域全体の課題把握と情報発信にも努めた。

・ 現場密着型相談支援：生活介護・グループホームとの近接性を活かし、送迎時や日中の様子から本人・家族の変化を把握しやすく、顔の見える関係性の構築に努めた。

・ 小規模事業所ならではの機動力・柔軟性及び迅速な連絡調整と丁寧な個別対応を目指す。

・ 法人内チーム支援体制及び法人内の他サービスと連携し、不足部分を相互補完できる体制を整えている。

・ 外部専門家との連携による質向上：日本福祉大学社会福祉学部 木全和巳教授等をアドバイザーとして招き、ケース検討会への参加・助言を受ける体制を構築。医療・教育等他分野専門職とのネットワークも活用し、継続的に相談支援の質向上に取り組んでいる。

○ 四街道市福祉作業所（指定管理）

2024 年 4 月より四街道市の指定管理制度にて運営開始し、本年度で 2 年目を迎えた。利用者数は年度途中に減少したが、現状維持に留まっている。

・ 特別支援学校からの実習受入れを継続

・ 新規通所者の獲得が今後の重要課題

同時に、支援の質向上と地域に根差した活動の強化が求められる。

○ 共同生活援助事業 はにかむ

はにかむ開所により、仲間たちの新しい暮らしの場がスタートした。利用者は新たな生活に慣れ、安定した日常を築いている。既存男性棟の増床、女性棟の増築のため、はにかむ 2 の整備を同時進行しており、来年度 8 月の開所を予定している。暮らしの場の整備は、本人および家族の高齢化を見据えた法人の中長期戦略の重要な柱である。

○ 地域貢献事業部（CCC）の展開

地域貢献事業部 CCC の設置により、法人および利用者が主体となる地域貢献活動を継続的に実施する体制を整えた。主な取り組みとして、四街道ふるさと祭りチャリティーTシャツ、よつかいどうユニバーサル工業フェスタ 2025 開催（実行委員として参加）、第 4 回「ハフェス 2025」開催、四街道市版 CSA 事業「nof!」の開始（農福連携）、消防服アップサイクルプロジェクトの推進がある。これらは単発イベントではなく、農業・行政・福祉を結ぶ持続的地域モデルの構築を目的としている。今後は新たな地域貢献事業「UNI」を計画し、地域に根差した法人運営をさらに発展させていく。

○ **今後の課題について**

- ① 定員充足と安定経営の両立
- ② 支援の質の向上（特に相談支援機能の強化）
- ③ 暮らしの場の拡充
- ④ 地域貢献事業の「永続化」
- ⑤ 法人 10 年を見据えた中長期経営戦略の再構築

一過性ではなく、持続可能で発展的な法人運営を進めていくことが求められる。

6. 法人の総合的な取り組み

ア. 法人理念の整理と M（Mission）・V（Vision）・V（Value）の作成・共有について

特定非営利活動法人はちみつから継続して掲げてきた理念を改めて整理し、より明確で洗練された理念体系として、Mission・Vision・Value を再構築した（別紙参照）。

私たちが目指す社会は、障がいのある仲間たちが、地域の中で、地域のために、地域に必要とされ、愛される存在となる社会である。その実現のために、私たちは「はたらく（側業）」を実践し、仲間も地域も共に豊かになっていくことを Vision として掲げた。

理念は掲げるだけでなく、職員全員で共有し、日々の実践につなげることが重要である。そのため、全職員を対象とした研修を年 2 回実施し、理念の理解と共有を図る場を継続的に設けた。

イ. 虐待防止委員会および身体拘束適正化委員会の取り組み

利用者の尊厳と人権擁護の観点から、虐待防止および身体拘束適正化に関する取り組みを強化した。委員会は年 4 回開催し、既存の会議体や外部委員と連携しながら、日々の支援の状況を共有し、検証と改善に努めた。委員一人ひとりが「自分事」として課題を捉え、形骸化しない運営を意識している。また、監事によるコンプライアンスチェックを実施し、現場の支援状況や利用者の様子について確認・検証を行った。

研修面では、

- ・全職員（事務職含む）対象の内部研修を年 2 回実施
- ・外部研修へも年 2 回参加（任意参加延べ 53 人参加）

とし、知識と意識の向上を図った。虐待防止マニュアルの整備・見直しも継続的にやっている。今後も、利用者の権利擁護を法人運営の根幹として取り組みを継続する。

ウ. 事業継続計画（BCP）の点検・研修実施について

感染症および自然災害を想定した事業継続計画（BCP）の点検・研修を実施し、職員間の共通理解を図った。

① 感染症 BCP

新型コロナウイルス対応の経験を踏まえ、

- ・感染時の人員配置・応援体制
- ・感染拡大予防策
- ・初動対応の確認

をマニュアルに沿って再確認した。法人医務を中心に感染症対策委員会を年 4 回開催し、研修や会議を通じて予防策・対応策の周知徹底を図った。

② 自然災害 BCP

- ・緊急時の連絡体制確認
- ・発電機の始動訓練
- ・送迎困難ケースの想定確認
- ・備蓄品（簡易ベッド等）の確認

など具体的な実践を通して点検を行った。

また、四街道市と連携し、指定福祉避難所としての合同訓練を実施した。災害時は利用者および避難者の安全を最優先とし、今後も改善を積み重ねていく。

エ. 共同生活援助事業「はにかむ」開所および「はにかむ2」の整備について

令和7年4月1日より、グループホーム「はにかむ」を開所し、仲間たちの新しい生活が始まった。家族支援の観点からも重要な役割を担う事業である。本年度は数回の緊急受け入れを実施し、地域生活支援拠点としての機能（緊急受け入れ・体験利用）を果たした。

さらに、男性棟の増床、女性棟の増築及び「はにかむ2」建設着工を開始し、来年度8月の開所を目指して整備を進めている。暮らしの場の拡充は、法人の中長期戦略の柱である。

オ. 地域貢献事業について

地域貢献事業部 CCC を中心に、地域ニーズに応じた活動を継続的に実施した。

主な取り組みは、

- ・四街道ユニバーサル工業フェスタ 2025
 - ・ボランティア活動
 - ・農福連携から発展した「nof!」事業
 - ・四街道市消防アップサイクルプロジェクト
- である。これらは単発事業ではなく、地域に求められる活動を法人が主体的に担う取り組みである。地域に必要とされる法人であり続けることが、CCC および法人の存在意義であるとする。今後も地域ニーズを把握し、持続的な地域貢献を行っていく。

カ. 人材育成および人事考課の取り組みについて

本年度も人材育成を法人運営の重要課題として位置付けた。

- ・毎月の職員研修の充実
 - ・年2回の全職員研修
 - ・新入職員ロードマップの作成・実施
 - ・新人研修の体系化
 - ・資格取得支援制度の導入
- など、育成体制の整備を進めた。

人事考課制度の運用

正規職員が自ら目標を設定し、その進捗確認・振り返りを行う面談を実施した。面談は利用者支援の質向上にもつながる重要な機会である。福祉現場はリモートで完結しない職種であるため、職員の仕事に向き合う姿勢や意欲も評価に反映していく。「育成・評価・処遇」が相互に連動する仕組みを構築するため、今後も制度の改善に取り組む。



（野菜の袋詰めをする作業所）



（天気にも恵まれた八フェス）



（畑ではたらく）

私たちの大切な仲間の一人が、食事時の事故により、令和7年7月1日にご逝去されました。他事業所で勤められた後、はちみつでも仲間たちを笑顔にしてくれる、とても素敵な存在でした。最期まで、私たちに笑顔と元気を届けてくださいました。ここに生前のご厚誼に深く感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。



障がいのある仲間が、
地域の中で、地域ために、
地域に必要とされる（愛される）
社会をつくれます。

2025 年度 事業報告書

発行日 2026 年 3 月 31 日

発行責任者

社会福祉法人



よつかいどう福祉会

四街道市たかおの杜 15 番 5 号

理事長 金室 修平

